

三原市男女共同参画プラン（第3次）策定のための

市民意識調査

結果報告書

平成 28（2016）年 12 月

三 原 市

目 次

I	調査の概要と回答者の属性	1
1	調査の概要	1
(1)	調査目的	1
(2)	調査対象及び調査方法	1
(3)	配布数及び回収結果	1
2	本調査報告書の基本的な事項	1
(1)	数値の基本的な取り扱いについて	1
(2)	1次・2次・3次プラン，全国の表示について	1
(3)	性別，年代別の表の取り扱い	1
3	回答者の属性	2
(1)	性別	2
(2)	年齢	2
(3)	居住地域	4
(4)	結婚の状況	4
(5)	家族構成	5
(6)	就労形態	6
(6) - 1	就労形態（夫）	6
(6) - 2	就労形態（妻）	6
II	調査結果	7
1	家庭における男女共同参画について	7
(1)	夫は外で働き妻は家庭を守るという考え方について	7
(2)	結婚生活における家事の役割分担の理想と現実	9
(4)	子どもの世話の担当者	12
(5)	結婚，家庭，離婚について	12
2	就労や職業生活について	13
(1)	女性が職業を持つことについて	13
(2)	回答者の就労状況	15
(3)	最初の仕事を続けていない理由	16
(4)	現在は女性が働きやすい社会状況か	18
(5)	出産後離職せず働き続けるために必要なこと	20
3	男女平等に関する教育について	22
(1)	学校教育における男女平等に関する教育について	22
(2)	男女平等の推進のために行うとよい学校教育	24
4	社会生活における男女共同参画について	26
(1)	地域活動や地域行事への参加経験	26

(2) 参加したことのあ地域活動や地域行事.....	27
(3) 地域活動に参加したことがない理由.....	29
(4) 男性の子育てや地域活動参加のために必要なこと.....	30
5 健康や福祉に関することについて.....	32
(1) 家族内の要介護者を主に介護している人.....	32
(2) 自身が要介護となった場合に介護してほしい人.....	33
(3) 健康診断やがん検診の受診状況.....	34
(4) 受診していない理由.....	35
6 男女の人権に対する問題について.....	37
(1) セクシュアル・ハラスメントに該当する行為.....	37
(2) 配偶者・パートナー間の暴力について.....	39
(3) 暴力について打ち明けたり相談したこと.....	40
(4) どこにも相談しなかった理由.....	41
(5) 配偶者の暴力をなくすために必要なこと.....	42
7 男女共同参画の実現について.....	44
(1) 政策・方針決定の過程に女性が進出していない理由.....	44
(2) 防災や災害復興について特に力を入れるべきこと.....	46
(3) 分野ごとの男女平等度.....	49
(4) 男女共同参画社会実現に向け力を入れるべきこと.....	57
アンケート 自由意見	59

I 調査の概要と回答者の属性

1 調査の概要

(1) 調査目的

本調査は、「三原市男女共同参画プラン（第3次）」策定にあたって、市民の男女共同参画社会に対する考えや意見を把握し、計画づくりの基礎資料とするために実施しました。

(2) 調査対象及び調査方法

項目	内容
調査対象	18 歳以上の市内居住者
抽出数	2,000（男・女 各 1,000）
抽出法	無作為抽出
調査方法	郵送法
調査時期	平成 28（2016）年 10 月 21 日～11 月 3 日

(3) 配布数及び回収結果

配布数	2,000
回収数	791
回収率	39.6%

2 本調査報告書の基本的な事項

(1) 数値の基本的な取り扱いについて

- ①比率はすべて百分率（%）で表し、小数点以下 2 位を四捨五入して算出しています。
従って、合計が 100%を上下する場合があります。
- ②基数となるべき実数は、“n＝〇〇〇”として掲載し、各比率は n を 100%として算出しています。
- ③質問の終わりに【複数回答】とある問は、1 人の回答者が 2 つ以上の回答を出してもよい問であり、従って各回答の合計比率は 100%を超える場合があります。

(2) 1 次・2 次・3 次プラン、全国を表示について

グラフ内の 1 次・2 次・3 次プラン、全国を表示は、以下のとおりです。

1 次プラン：三原市男女共同参画社会における市民意識調査結果 [平成 18 年]

2 次プラン：三原市男女共同参画社会における市民意識調査結果 [平成 23 年]

3 次プラン：三原市男女共同参画社会における市民意識調査結果 [平成 28 年]

全国：男女共同参画社会に関する世論調査（内閣府）、平成 28 年 9 月調査

(3) 性別、年代別の表の取り扱い

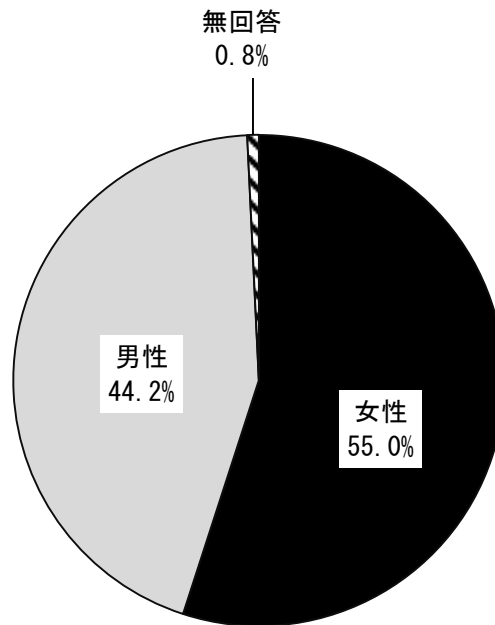
- ①回答の内、「無回答」「該当なし」「その他」を除き、添付しました。
- ②回答率が 50%以上を 、30%以上を  としました。

3 回答者の属性

(1) 性別

回答者の性別構成は、「女性」(55.0%)、「男性」(44.2%)で、女性の回答が若干多くなっています。

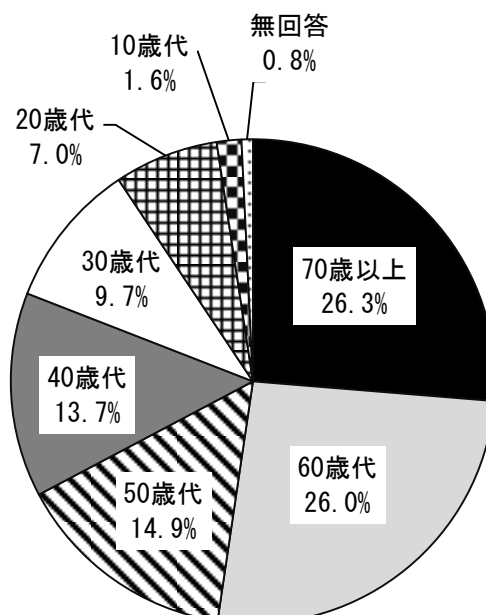
n=791



(2) 年齢

回答者の年齢構成は、「70歳以上」(26.3%)、「60歳代」(26.0%)が多く60歳代以上の計が52.3%と5割を超えています。次いで、「50歳代」(14.9%)、「40歳代」(13.7%)、「30歳代」(9.7%)、「20歳代」(7.0%)、「10歳代」(1.6%)の順です。

n=791



年齢別では、10 歳代から 60 歳代までは女性の回答が多く、70 歳以上では男性の回答が多くなっています。特に 40 歳代が 64.8%と女性の回答が多く、次いで 10 歳代、30 歳代、20 歳代で女性の回答が多くなっています。

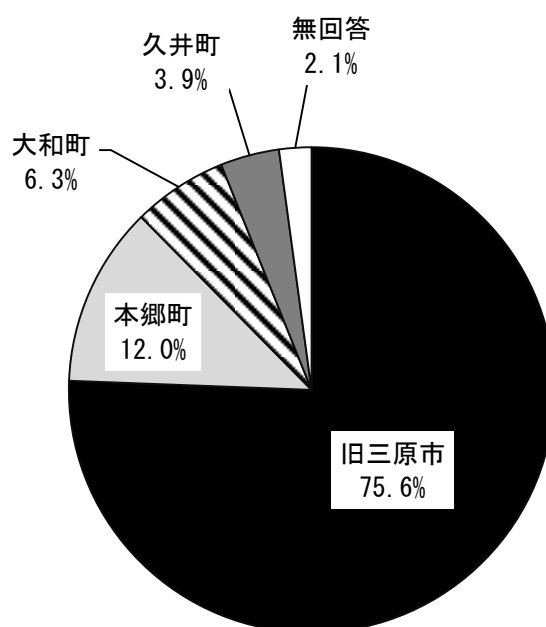
(人・%)

		合計	問1 性別	
			男性	女性
全体		791	350	435
		100.0	44.2	55.0
年齢	10歳代	13	5	8
		100.0	38.5	61.5
	20歳代	55	22	33
		100.0	40.0	60.0
	30歳代	77	30	47
		100.0	39.0	61.0
	40歳代	108	38	70
		100.0	35.2	64.8
	50歳代	118	56	62
		100.0	47.5	52.5
	60歳代	206	92	114
		100.0	44.7	55.3
	70歳以上	208	107	100
		100.0	51.4	48.1

(3) 居住地域

回答者の居住地域は、「旧三原市」(75.6%)が最も多く、次いで「本郷町」(12.0%)、「大和町」(6.3%)、「久井町」(3.9%)の順です。

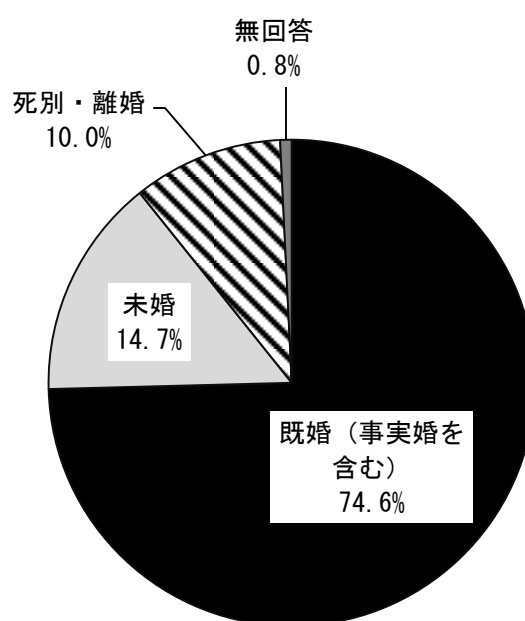
n=791



(4) 結婚の状況

回答者の結婚の状況は、「既婚（事実婚を含む）」(74.6%)が最も多く、次いで「未婚」(14.7%)、「死別・離婚」(10.0%)の順です。

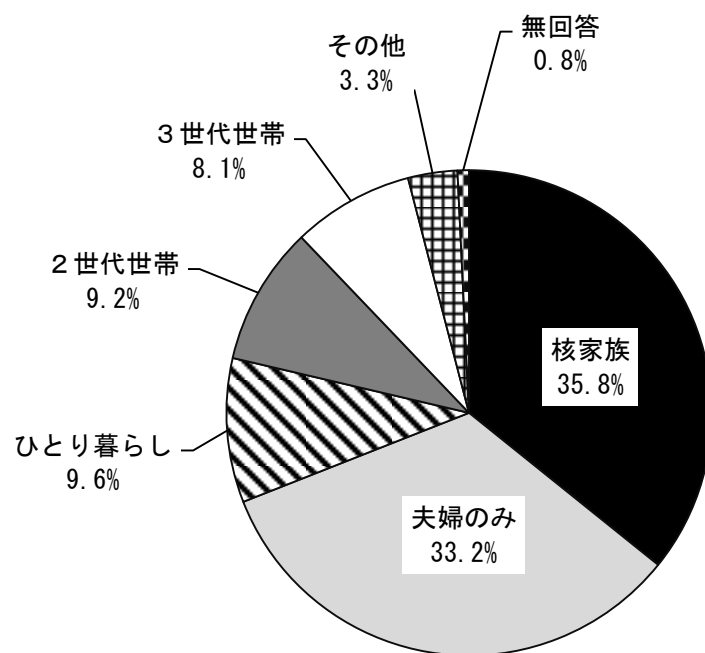
n=791



(5) 家族構成

回答者の家族構成は、「核家族」(35.8%),「夫婦のみ」(33.2%)が多く、次いで「ひとり暮らし」(9.6%),「2世代世帯」(9.2%),「3世代世帯」(8.1%),「その他」(3.3%)の順です。

n=791

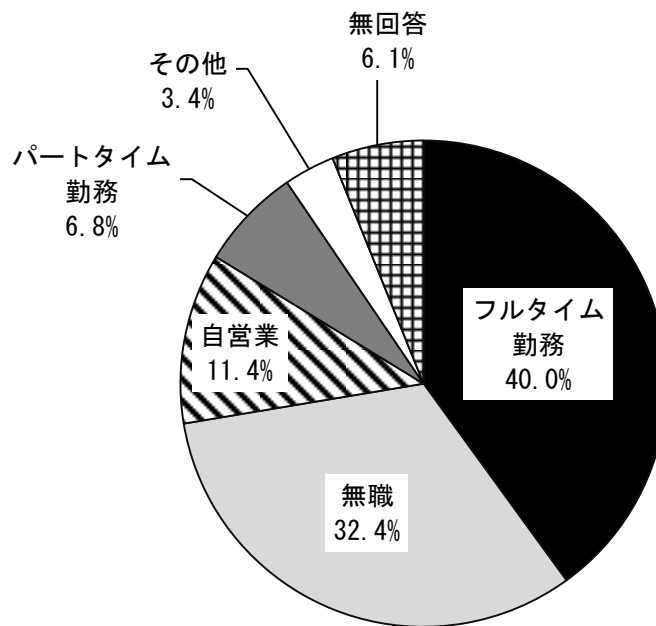


(6) 就労形態

(6) - 1 就労形態 (夫)

既婚者のうち、夫の就労形態は「フルタイム勤務」(40.0%)、「無職」(32.4%)が多く、次いで「自営業」(11.4%)、「パートタイム勤務」(6.8%)、「その他」(3.4%)の順です。高齢の回答者が多いこともあり、無職が3割を超えています。

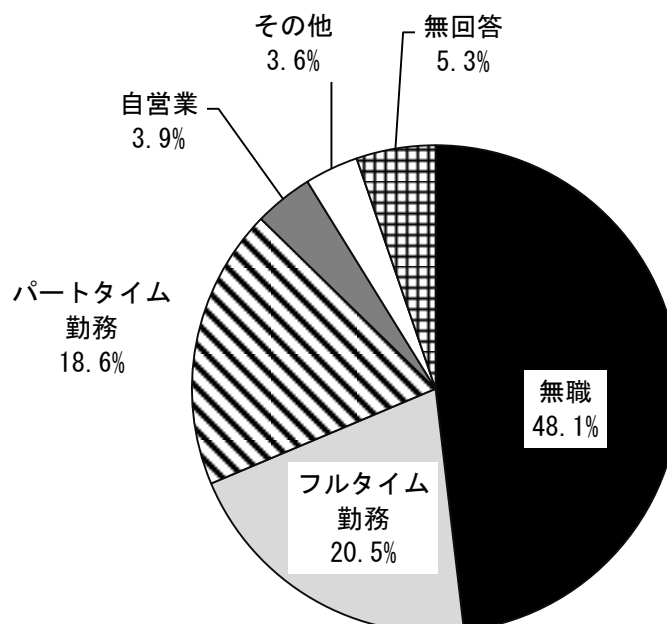
n=791



(6) - 2 就労形態 (妻)

既婚者のうち、妻の就労形態は「無職」(48.1%)が最も多く、次いで「フルタイム勤務」(20.5%)、「パートタイム勤務」(18.6%)、「自営業」(3.9%)、「その他」(3.6%)の順です。女性も同様に、高齢の回答者が多いこともあり、無職が5割弱と多くなっています。

n=791



Ⅱ 調査結果

1 家庭における男女共同参画について

(1) 夫は外で働き妻は家庭を守るという考え方について

問7 あなたは、「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである」という考え方についてどのようにお考えですか。

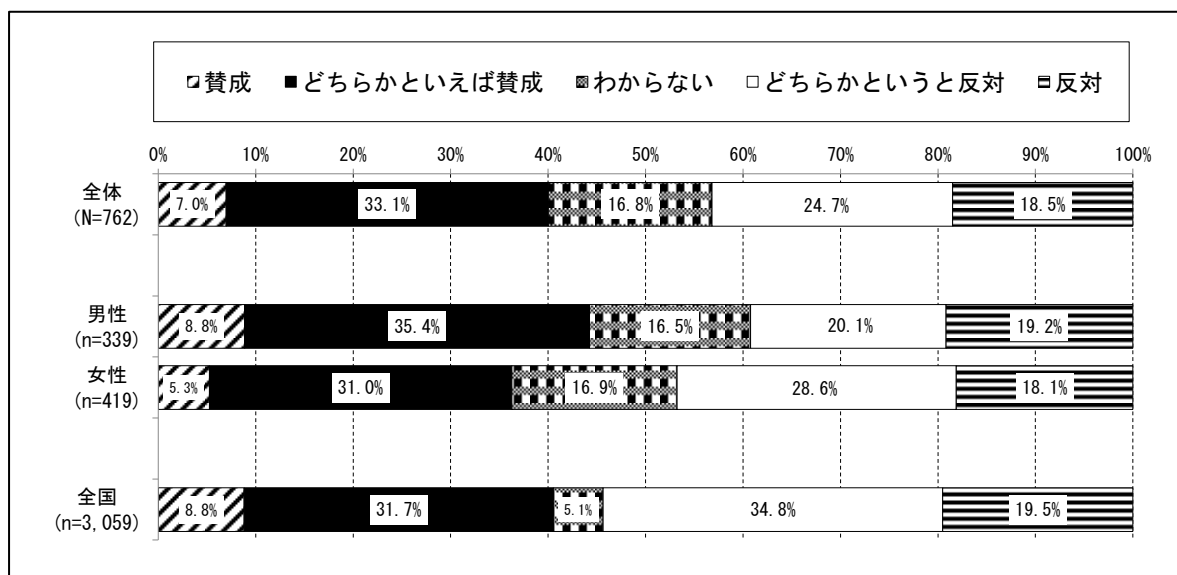
夫は外で働き妻は家庭を守るという考え方については、「どちらかといえば賛成」(33.1%)が多く、次いで「どちらかというと反対」(24.7%)、「反対」(18.5%)、「わからない」(16.8%)、「賛成」(7.0%)の順です。

「賛成」と「どちらかといえば賛成」の計は40.1%、「反対」と「どちらかというと反対」の計は43.2%で、「反対」の意見が3.1ポイント多くなっています。

全体に比べ、男性は「賛成」、「どちらかといえば賛成」が多く、女性は「どちらかというと反対」が多くなっています。

全国に比べ「賛成」、「どちらかといえば賛成」はほぼ同率です。「賛成」では、男性は同率ですが、女性は3.5ポイント少なくなっています。一方、「反対」はほぼ同率ですが、「どちらかというと反対」が約10ポイント少なくなっています。

＜夫は外で働き妻は家庭を守るという考え方について（全体、性別、全国）＞



年齢別では、10歳代と30歳代では「どちらかという反対」が多くなっています。20歳代は、「どちらかといえば賛成」が多く、全体に比べ「賛成」が多いのも特徴です。「賛成」「どちらかといえば賛成」が最も多いのが70歳以上です。

※この表は、「無回答」を含めた数をnとし、各比率はnを100%として算出しています。

前ページは、全国との比較のために「無回答」を除き比率を算出しています。

(人・%)

		合計	問7 夫は外で働き妻は家庭を守るという考え方について				
			賛成	どちらか といえば 賛成	わから ない	どちらか という 反対	反対
年齢	10歳代	13	1	3	2	4	3
		100.0	7.7	23.1	15.4	30.8	23.1
	20歳代	55	5	17	15	9	9
		100.0	9.1	30.9	27.3	16.4	16.4
	30歳代	77	2	22	17	25	11
		100.0	2.6	28.6	22.1	32.5	14.3
	40歳代	108	4	23	32	26	21
		100.0	3.7	21.3	29.6	24.1	19.4
	50歳代	118	3	35	19	27	31
		100.0	2.5	29.7	16.1	22.9	26.3
	60歳代	206	12	62	24	58	40
		100.0	5.8	30.1	11.7	28.2	19.4
	70歳以上	208	25	88	19	39	25
		100.0	12.0	42.3	9.1	18.8	12.0

(2) 結婚生活における家事の役割分担の理想と現実

問8 次のことがらについて、主に誰が担当するのが「理想」だと思いますか。未婚の方は「もし結婚したらどうしたいか」でお答えください。

＜問4で、「1. 既婚（事実婚を含む）」と回答した方にお聞きします。＞

問9 次のことがらについて、現実にはどなたが分担していますか。

結婚生活において、誰が担当するのが《理想》だと思うかと同じ項目について、既婚者は《現実》には誰が担当しているかを比較しました。

【家事全般】

《理想》では、「妻中心」(40.6%)、「夫と妻同程度」(38.2%)、「家族」(14.9%)の順です。《現実》では、「妻中心」(77.1%)が大幅に増え、「夫と妻同程度」(16.6%)、「家族」(0.8%)の順です。

【家計のやりくり】

《理想》では、「妻中心」(49.9%)が多く、次いで「夫と妻同程度」(38.8%)です。《現実》では、「妻中心」(72.2%)が大幅に増え、次いで「夫と妻同程度」(17.6%)です。

【貯蓄・投資信託】

前2項目と異なり、《理想》では、「夫と妻同程度」(53.9%)が多く、次いで「妻中心」(24.4%)です。《現実》では、「妻中心」(47.6%)が増え、「夫と妻同程度」(29.8%)の順です。

【子どもの教育方針】

他の項目に比べ、《理想》で「夫と妻同程度」(76.4%)が最も多く、《現実》でも「夫と妻同程度」(51.4%)が多くなっています。

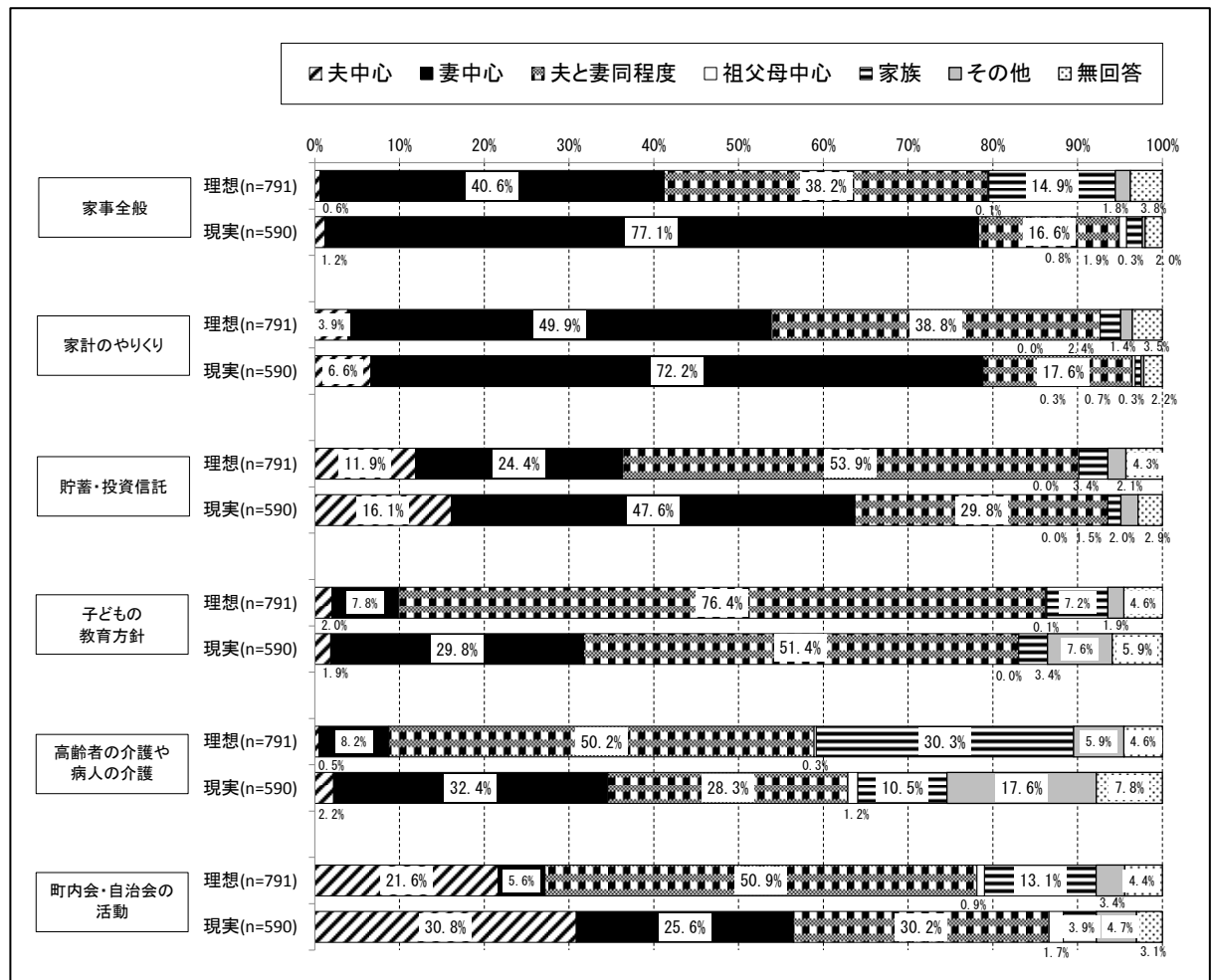
【高齢者の介護や病人の介護】

《理想》では、「夫と妻同程度」(50.2%)、「家族」(30.3%)の順ですが、《現実》では、「妻中心」(32.4%)、「夫と妻同程度」(28.3%)、「その他」(17.6%)の順です。

【町内会・自治会の活動】

《理想》では、「夫と妻同程度」(50.9%)、「夫中心」(21.6%)の順です。《現実》では、「夫中心」(30.8%)、「夫と妻同程度」(30.2%)、「妻中心」(25.6%)の順です。

<結婚生活における家事の役割分担の理想と現実>



家事全般の《理想》を上段に，《現実》を下段に示します。

《理想》では、「夫と妻と同程度」が男女別、年齢別でも多かったのですが，《現実》では男女別、全年齢で「妻が中心」となっています。

10歳代は回答者に既婚者がいないことから，《理想》で約3割の方が「家族」と回答しています。また、20歳代の《現実》で、「妻が中心」が全体に比べ少なく「夫と妻と同程度」が多いのが特徴です。

(人・%)

		合計	問8 理想 ① 家事全般				
			夫が中心	妻が中心	夫と妻と同程度	祖父母が中心	家族
全体		791	5	321	302	1	118
		100.0	0.6	40.6	38.2	0.1	14.9
性別	男性	350	3	159	125	1	40
		100.0	0.9	45.4	35.7	0.3	11.4
	女性	435	2	160	177	0	77
		100.0	0.5	36.8	40.7	0.0	17.7
年齢	10歳代	13	0	4	5	0	4
		100.0	0.0	30.8	38.5	0.0	30.8
	20歳代	55	0	20	25	0	9
		100.0	0.0	36.4	45.5	0.0	16.4
	30歳代	77	1	25	36	0	12
		100.0	1.3	32.5	46.8	0.0	15.6
	40歳代	108	0	41	49	0	15
		100.0	0.0	38.0	45.4	0.0	13.9
	50歳代	118	1	51	41	0	22
		100.0	0.8	43.2	34.7	0.0	18.6
	60歳代	206	1	92	74	0	26
		100.0	0.5	44.7	35.9	0.0	12.6
	70歳以上	208	2	87	72	1	28
		100.0	1.0	41.8	34.6	0.5	13.5

		合計	問9 現実 ① 家事全般				
			夫が中心	妻が中心	夫と妻と同程度	祖父母が中心	家族
全体		590	7	455	98	5	11
		100.0	1.2	77.1	16.6	0.8	1.9
性別	男性	272	6	204	53	1	4
		100.0	2.2	75.0	19.5	0.4	1.5
	女性	317	1	251	44	4	7
		100.0	0.3	79.2	13.9	1.3	2.2
年齢	10歳代	0	0	0	0	0	0
		0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	20歳代	16	0	9	5	1	0
		100.0	0.0	56.3	31.3	6.3	0.0
	30歳代	52	1	39	8	2	1
		100.0	1.9	75.0	15.4	3.8	1.9
	40歳代	79	0	70	7	0	1
		100.0	0.0	88.6	8.9	0.0	1.3
	50歳代	96	0	80	12	0	3
		100.0	0.0	83.3	12.5	0.0	3.1
	60歳代	178	3	139	29	1	4
		100.0	1.7	78.1	16.3	0.6	2.2
	70歳以上	168	3	117	37	1	2
		100.0	1.8	69.6	22.0	0.6	1.2

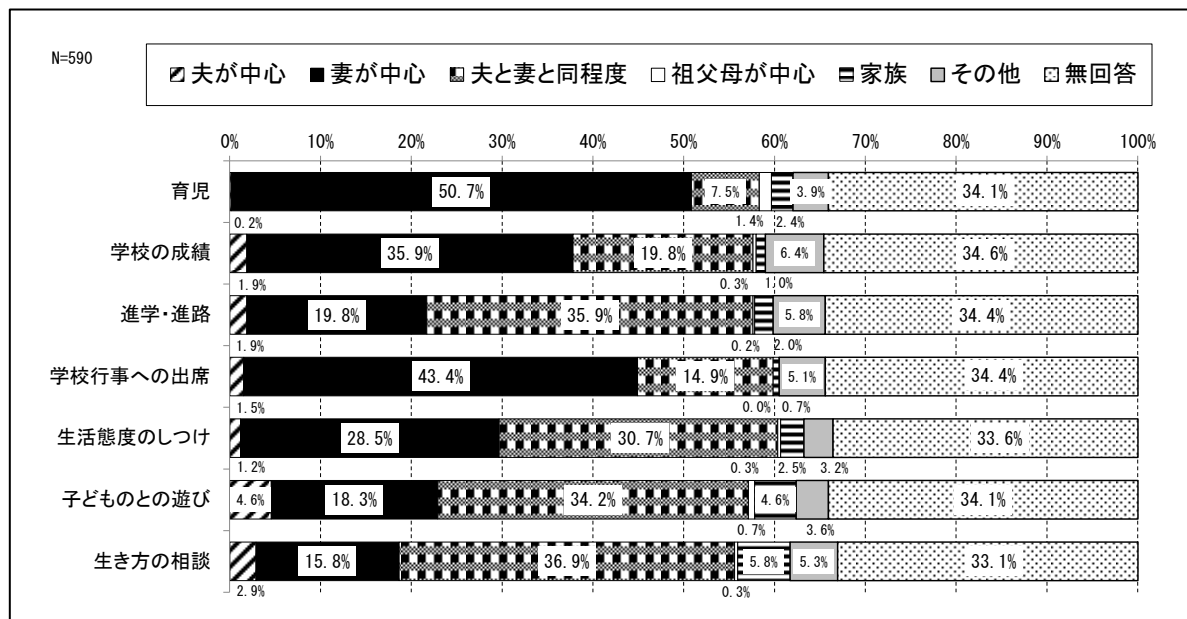
(4) 子どもの世話の担当者

<問4で、「1. 既婚（事実婚を含む）」と回答した方のうち、お子さんのいらっしゃる方にお聞きます。>

問10 あなたの家庭では、次のような子どもの世話は、主にどなたがしていますか。

子どもの世話を誰が担当しているかについて既婚者のうち子どものいる方にたずねたところ、「育児」(50.7%)、「学校行事への出席」(43.4%)、「学校の成績」(35.9%)で「妻が中心」が1番多くなっています。

<子どもの世話の担当者>

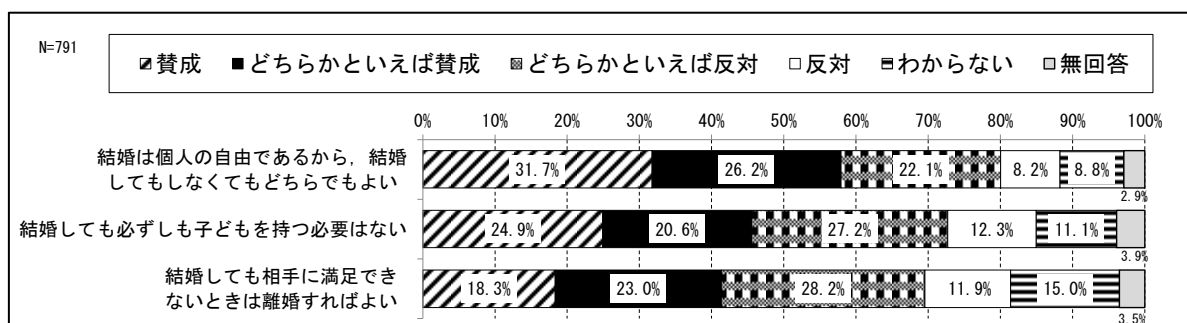


(5) 結婚、家庭、離婚について

問11 結婚、家庭、離婚に関する次のような意見についてどのように思いますか。

結婚、家庭、離婚に関する意見に対して、「賛成」と「どちらかといえば賛成」の計では、「結婚は個人の自由であるから、結婚してもしなくてもどちらでもよい」(57.9%)、「結婚しても必ずしも子どもを持つ必要はない」(45.5%)、「結婚しても相手に満足できないときは離婚すればよい」(41.3%)の順です。

<結婚、家庭、離婚について>



2 就労や職業生活について

(1) 女性が職業を持つことについて

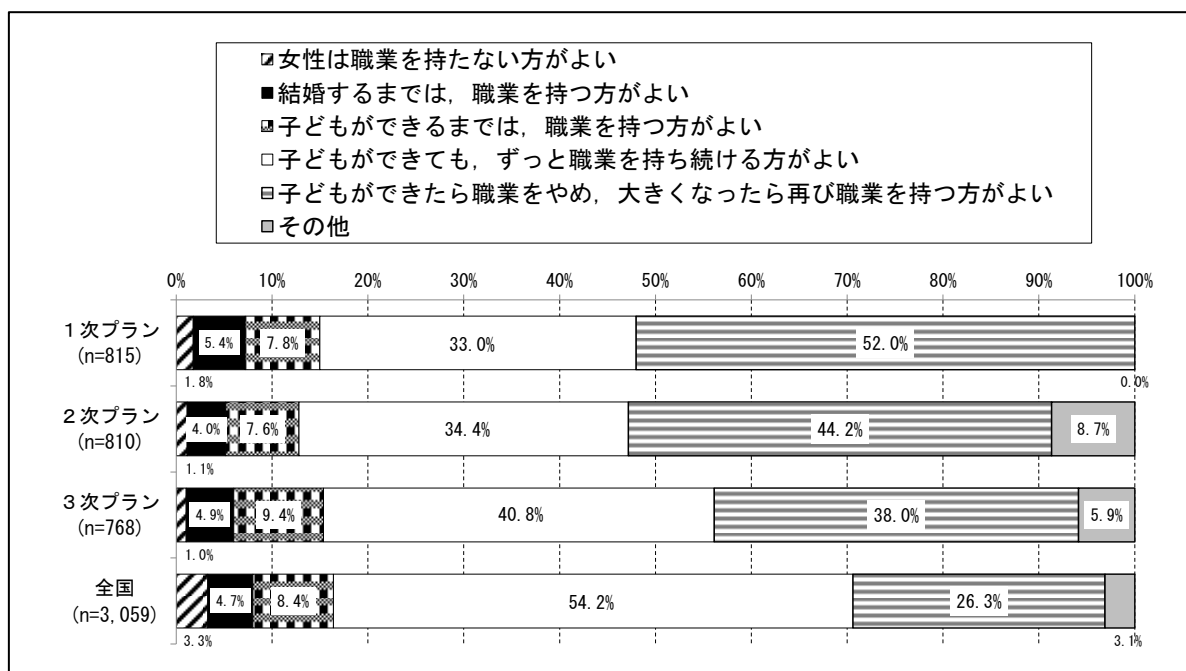
問 12 一般的に女性が職業を持つことについて、あなたはどのようにお考えですか。

女性が職業を持つことについて、今回の調査（3次プラン）では「子どもができて、ずっと職業を持ち続ける方がよい」（40.8%）、「子どもができたなら職業をやめ、大きくなったら再び職業を持つ方がよい」（38.0%）が多くなっています。

1次プラン、2次プランと順次、「子どもができて、ずっと職業を持ち続ける方がよい」が増加し、「子どもができたなら職業をやめ、大きくなったら再び職業を持つ方がよい」が減少しています。

ただし、全国に比べると「子どもができて、ずっと職業を持ち続ける方がよい」が13.4ポイント少なく、「子どもができたなら職業をやめ、大きくなったら再び職業を持つ方がよい」が11.7ポイント多くなっています。

＜女性が職業を持つことについて（1・2・3次プラン、全国）



男女別では、男女とも「子どもができてみずっと職業を持ち続ける」、「子どもができたらやめ大きくなったら再就職」が多くなっています。「子どもができてみずっと職業を持ち続ける」は男性に比べ女性が約5ポイント上回っています。

「子どもができてみずっと職業を持ち続ける」の回答を年齢別でみると40歳代(50.9%)が最も多く、次いで50歳代(47.5%)、20歳代(43.6%)、30歳代(42.9%)の順です。一方、10歳代と60歳代、70歳以上では「子どもができたらやめ大きくなったら再就職」が多くなっています。

10歳代と20歳代の回答の差が大きいのも特徴です。

※この表は、「無回答」を含めた数をnとし、各比率はnを100%として算出しています。

前ページは、全国との比較のために「無回答」を除き比率を算出しています。

※表の表示スペース上、項目の文章を要約しています。

(人・%)

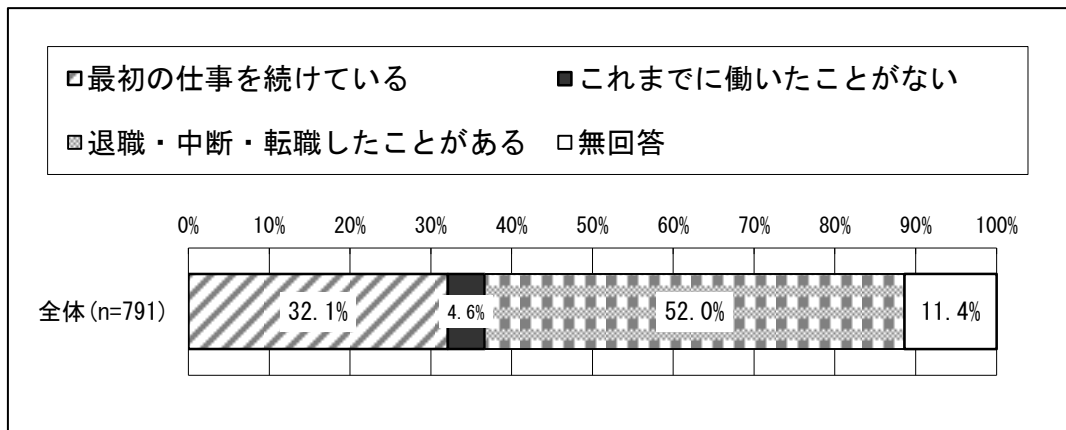
		合計	問12 女性が職業を持つことについて				
			女性は職業を持たない方がよい	結婚するまでは職業を持つ	子どもができるまでは職業を持つ	子どもができてみずっと職業を持ち続ける	子どもができたらやめ大きくなったら再就職
全体		791	8	38	72	313	292
		100.0	1.0	4.8	9.1	39.6	36.9
性別	男性	350	6	21	41	129	133
		100.0	1.7	6.0	11.7	36.9	38.0
	女性	435	2	16	30	182	157
		100.0	0.5	3.7	6.9	41.8	36.1
年齢	10歳代	13	0	0	2	4	5
		100.0	0.0	0.0	15.4	30.8	38.5
	20歳代	55	0	4	12	24	13
		100.0	0.0	7.3	21.8	43.6	23.6
	30歳代	77	0	1	6	33	27
		100.0	0.0	1.3	7.8	42.9	35.1
	40歳代	108	0	2	6	55	29
		100.0	0.0	1.9	5.6	50.9	26.9
	50歳代	118	1	4	8	56	39
		100.0	0.8	3.4	6.8	47.5	33.1
	60歳代	206	4	7	14	83	87
		100.0	1.9	3.4	6.8	40.3	42.2
	70歳以上	208	3	19	23	55	91
		100.0	1.4	9.1	11.1	26.4	43.8

(2) 回答者の就労状況

問 13 あなたの就労状況は次のどれですか。

回答者の就労状況については、「仕事をやめたり，中断したり，転職したことがある」(52.0%)，「最初の仕事を続けている」(32.1%) の順で，「これまでに働いたことがない」は 4.6%でした。

<回答者の就労状況>



2次プランに比べ「最初の仕事を続けている」が 1.2 ポイント，「仕事をやめたり，中断したり，転職したことがある」が 3.3 ポイント減少しています。

設問	1次プラン	2次プラン	3次プラン
1. 最初の仕事を続けている	32.1%	33.3%	32.1%
2. これまでに働いたことがない	3.2%	2.6%	4.6%
3. 仕事をやめたり，中断したり，転職したことがある	56.5%	55.3%	52.0%

(3) 最初の仕事を続けていない理由

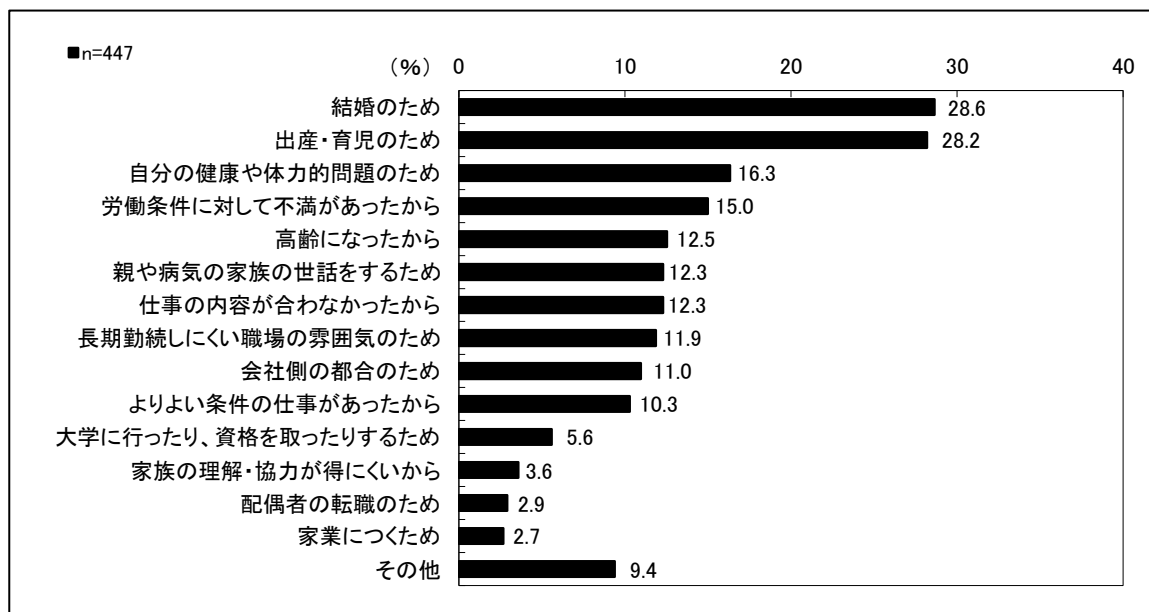
<問 13 で「2」または「3」と回答した方にお聞きます。>

問 13-1 それはどのような理由からですか。【複数回答】

問 13 で「2. これまでに働いたことがない」または「3. 仕事をやめたり，中断したり，転職したことがある」と回答した方に，その理由をたずねたところ，「結婚のため」(28.6%)，「出産・育児のため」(28.2%)が多く，次いで「自分の健康や体力的問題のため」(16.3%)，「労働条件に対して不満があったから」(15.0%)，「高齢になったから」(12.5%)，「親や病気の家族の世話をするため」・「仕事の内容が合わなかったから」(同率 12.3%)，「長期勤務しにくい職場の雰囲気のため」(11.9%)，「会社側の都合のため」(11.0%)，「よりよい条件の仕事があったから」(10.3%)の順です。

以下，回答が若干少なく「大学に行ったり，資格を取ったりするため」(5.6%)，「家族の理解・協力が得にくいから」(3.6%)，「配偶者の転職のため」(2.9%)，「家業につくため」(2.7%)の順です。

<最初の仕事を続けていない理由>



1次プラン、2次プランと同様に、1位は「結婚のため」、2位は「出産・育児のため」です。今回は、1次プラン、2次プランで5位以内にあった「会社側の都合のために」に変わり「高齢になったから」が入っています。

■最初の仕事を続けていない理由（1・2・3次プラン、上位5位までの回答）

順位	1次プラン	2次プラン	3次プラン
1	結婚のため(33.4%)	結婚のため(31.8%)	結婚のため(28.6%)
2	出産・育児のため (26.7%)	出産・育児のため(28.5%)	出産・育児のため(28.2%)
3	労働条件に対して不満があったから(18.6%)	会社側の都合のために (16.5%)	自分の健康や体力的問題のため(16.3%)
4	自分の健康や体力的問題のため(17.8%)	自分の健康や体力的問題のため(16.1%)	労働条件に対して不満があったから(15.0%)
5	会社側の都合のため (13.0%)	親や病気の家族の世話を するため(13.8%)	高齢になったから(12.5%)

(4) 現在は女性が働きやすい社会状況か

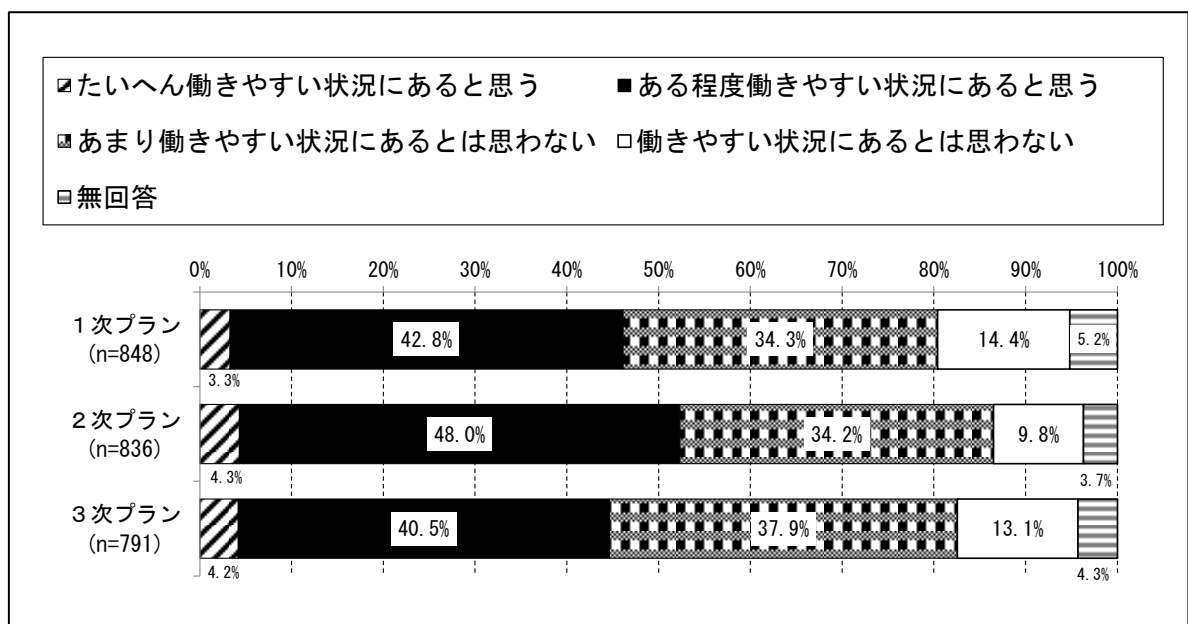
問 14 あなたは、現在の社会は女性が働きやすい状況にあると思いますか。

現在の社会は女性が働きやすい状況かどうかについて、今回の調査（3次プラン）では「ある程度働きやすい状況にあると思う」（40.5%）、「あまり働きやすい状況にあるとは思わない」（37.9%）が多く、以下、回答が若干少なく「働きやすい状況にあるとは思わない」（13.1%）、「たいへん働きやすい状況にあると思う」（4.2%）の順です。

「たいへん働きやすい状況にあると思う」と「ある程度働きやすい状況にあると思う」の計は44.7%、「働きやすい状況にあるとは思わない」と「あまり働きやすい状況にあるとは思わない」の計は51.0%で、「働きやすい状況にない」との意見が多くなっています。

1次プラン、2次プランに比べ、「働きやすい状況にある」が減少し、「働きやすい状況にない」が増加しています。

<現在は女性が働きやすい社会状況か（1・2・3次プラン）>



男女別では、「働きやすい状況にある」は男性（43.4％）に比べ女性（45.7％）が若干多く、逆に「働きやすい状況にない」は男性（52.0％）に比べ女性（50.2％）が若干少なくなっています。

年齢別では、「働きやすい状況にある」は10歳代（53.9％）、30歳代（50.7％）、50歳代（47.5％）の順です。逆に、「働きやすい状況にない」は20歳代（58.2％）、40歳代（55.5％）、60歳代（53.9％）の順です。

※働きやすい状況にある：「たいへん働きやすい状況にあると思う」と「ある程度働きやすい状況にあると思う」の計

働きやすい状況にない：「働きやすい状況にあるとは思わない」と「あまり働きやすい状況にあるとは思わない」の計

(人・％)

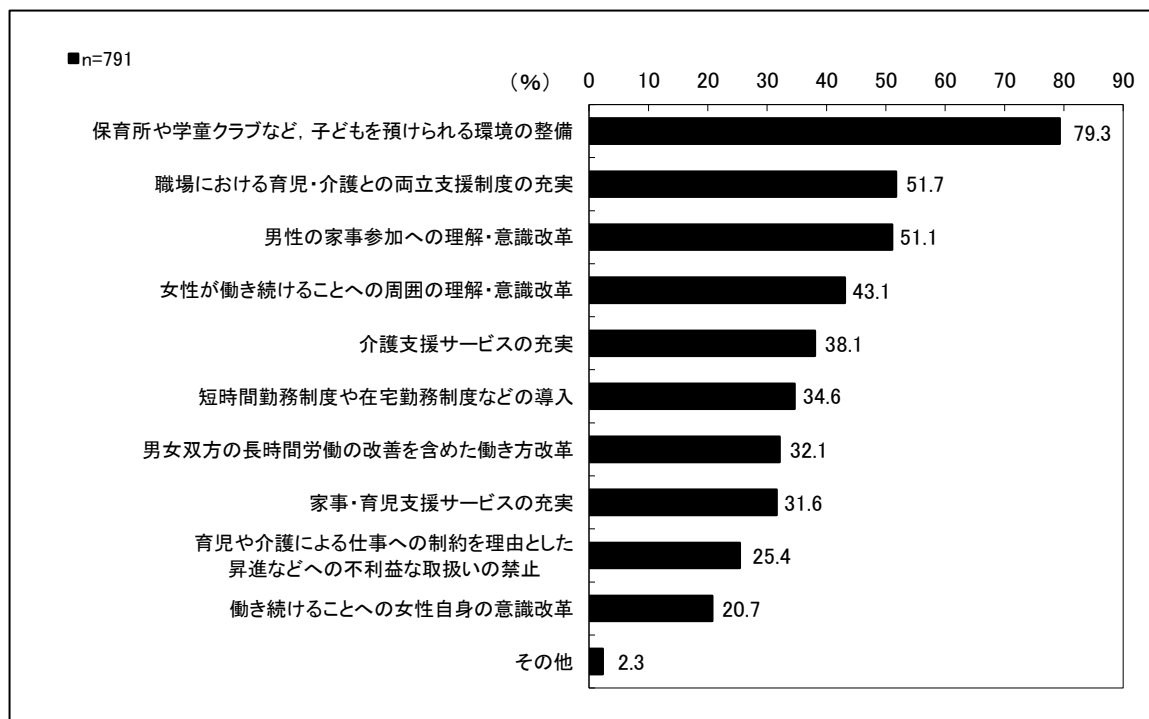
		合計	問14 現在は女性が働きやすい社会状況だと思うか			
			たいへん働きやすい状況にあると思う	ある程度働きやすい状況にあると思う	あまり働きやすい状況にあるとは思わない	働きやすい状況にあるとは思わない
全体		791	33	320	300	104
		100.0	4.2	40.5	37.9	13.1
性別	男性	350	19	133	139	43
		100.0	5.4	38.0	39.7	12.3
	女性	435	14	185	159	59
		100.0	3.2	42.5	36.6	13.6
年齢	10歳代	13	2	5	5	1
		100.0	15.4	38.5	38.5	7.7
	20歳代	55	3	20	28	4
		100.0	5.5	36.4	50.9	7.3
	30歳代	77	3	36	25	13
		100.0	3.9	46.8	32.5	16.9
	40歳代	108	3	42	43	17
		100.0	2.8	38.9	39.8	15.7
	50歳代	118	6	50	40	19
		100.0	5.1	42.4	33.9	16.1
	60歳代	206	7	82	82	29
		100.0	3.4	39.8	39.8	14.1
	70歳以上	208	9	83	74	20
		100.0	4.3	39.9	35.6	9.6

(5) 出産後離職せず働き続けるために必要なこと

問 14－1 あなたは、女性が出産後離職せずに同じ職場で働き続けるために、家庭、社会、職場において必要なことは何だと思いますか。【複数回答】

出産後離職せず働き続けるために必要なことについては、「保育所や学童クラブなど、子どもを預けられる環境の整備」(79.3%)が最も多く、次いで「職場における育児・介護との両立支援制度の充実」(51.7%)、「男性の家事参加への理解・意識改革」(51.1%)、「女性が働き続けることへの周囲の理解・意識改革」(43.1%)、「介護支援サービスの充実」(38.1%)、「短時間勤務制度や在宅勤務制度などの導入」(34.6%)、「男女双方の長時間労働の改善を含めた働き方改革」(32.1%)、「家事・育児支援サービスの充実」(31.6%)、「育児や介護による仕事への制約を理由とした昇進などへの不利益な取扱いの禁止」(25.4%)、「働き続けることへの女性自身の意識改革」(20.7%)の順です。

<出産後離職せず働き続けるために必要なこと>



男女別では、女性は全体と同様の傾向で「子どもを預けられる環境の整備」(82.1%)が最も多く、次いで「男性の家事参加への理解・意識改革」(57.5%)、「職場の育児・介護との両立支援制度の充実」(54.0%)の順です。男性は「子どもを預けられる環境の整備」(75.7%)が最も多く、次いで若干比率が下がり「職場の育児・介護との両立支援制度の充実」(49.1%)、「男性の家事参加への理解・意識改革」(42.9%)の順です。

年齢別では、どの年代も「子どもを預けられる環境の整備」が1位です。30歳代は「職場の育児・介護との両立支援制度の充実」と「働き続けることへの周囲の理解・意識改革」が3位(同率)に入っています。

※表の表示スペース上、項目の文章を要約しています。

(人・%)

		問14-1 出産後離職せず働き続けるために必要なこと										
		合計	子どもを預けられる環境の整備	介護支援サービスの充実	家事・育児支援サービスの充実	男性の家事参加への理解・意識改革	働き続けることへの周囲の理解・意識改革	働き続けることへの女性自身の意識改革	男女双方の長時間労働の改善など働き方改革	職場の育児・介護との両立支援制度の充実	短時間勤務制度や在宅勤務制度などの導入	昇進などへの不利益な取扱いの禁止
全体		791	627	301	250	404	341	164	254	409	274	201
		100.0	79.3	38.1	31.6	51.1	43.1	20.7	32.1	51.7	34.6	25.4
性別	男性	350	265	115	108	150	146	78	117	172	111	88
		100.0	75.7	32.9	30.9	42.9	41.7	22.3	33.4	49.1	31.7	25.1
	女性	435	357	185	141	250	194	85	134	235	161	111
		100.0	82.1	42.5	32.4	57.5	44.6	19.5	30.8	54.0	37.0	25.5
年齢	10歳代	13	11	2	5	5	5	2	4	7	3	2
		100.0	84.6	15.4	38.5	38.5	38.5	15.4	30.8	53.8	23.1	15.4
	20歳代	55	49	15	20	33	26	17	21	34	24	19
		100.0	89.1	27.3	36.4	60.0	47.3	30.9	38.2	61.8	43.6	34.5
	30歳代	77	58	20	26	49	41	13	37	41	34	18
		100.0	75.3	26.0	33.8	63.6	53.2	16.9	48.1	53.2	44.2	23.4
	40歳代	108	91	38	32	65	52	26	42	55	47	34
		100.0	84.3	35.2	29.6	60.2	48.1	24.1	38.9	50.9	43.5	31.5
	50歳代	118	103	57	40	66	48	25	40	69	38	35
		100.0	87.3	48.3	33.9	55.9	40.7	21.2	33.9	58.5	32.2	29.7
	60歳代	206	158	86	60	99	84	46	55	113	70	43
		100.0	76.7	41.7	29.1	48.1	40.8	22.3	26.7	54.9	34.0	20.9
	70歳以上	208	151	81	66	82	83	33	52	87	56	47
		100.0	72.6	38.9	31.7	39.4	39.9	15.9	25.0	41.8	26.9	22.6

3 男女平等に関する教育について

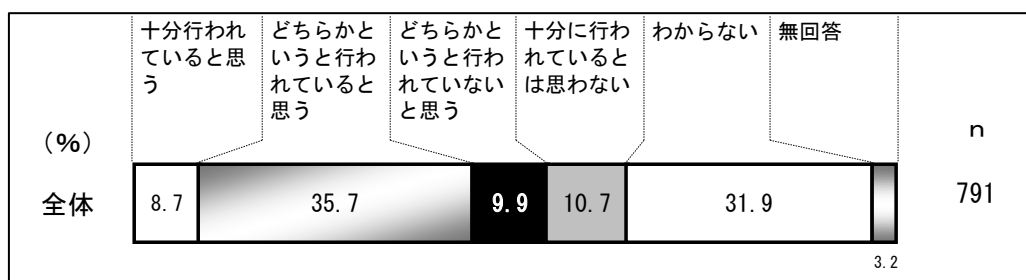
(1) 学校教育における男女平等に関する教育について

問 15 あなたは、現在の学校教育における男女平等に関する教育について、どのようにお考えですか。

学校教育における男女平等に関する教育について、今回の調査（3次プラン）では、「わからない」（31.9%）を除くと、「どちらかというに行われていると思う」（35.7%）が最も多く、以下、回答が若干少なく「十分に行われているとは思わない」（10.7%）、「どちらかというに行われていないと思う」（9.9%）、「十分に行われていると思う」（8.7%）の順です。

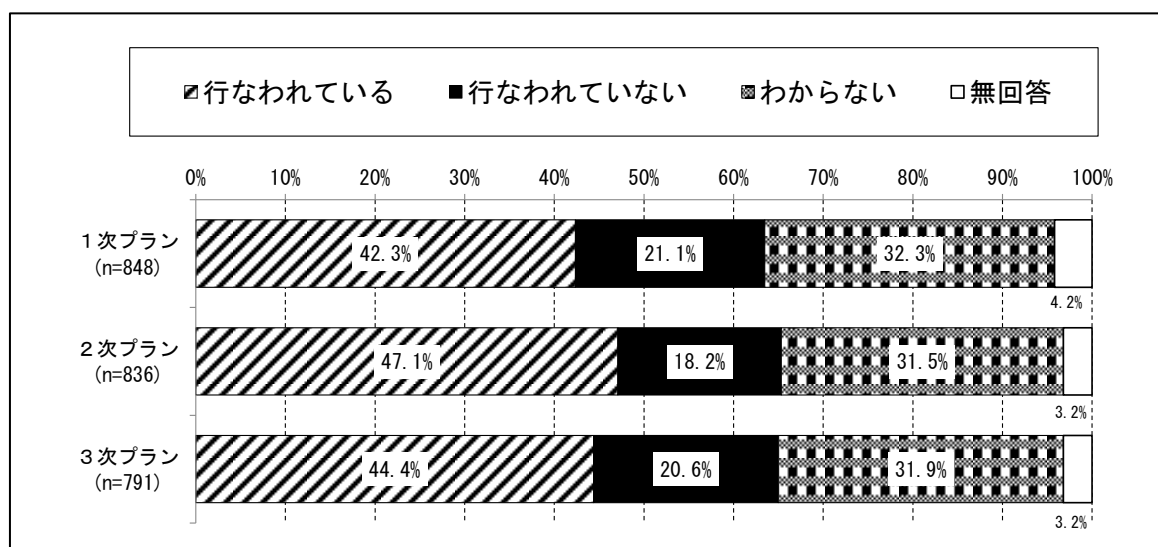
「十分に行われていると思う」と「どちらかというに行われていると思う」の計は44.4%、「十分に行われているとは思わない」「どちらかというに行われていないと思う」の計は20.6%で、「行われている」との意見が多くなっています。

<学校教育における男女平等に関する教育について>



3次プランは、2次プランに比べ「行なわれている」が減少し、「行なわれていない」が増加しています。

<学校教育における男女平等に関する教育について（1・2・3次プラン）>



男女別では、「十分行われていると思う」は男性が女性より 5.3 ポイント多くなっています。

年齢別では、10 歳代で「十分行われていると思う」が 3 割を超えています。「十分行われていると思う」と「どちらかというに行われていると思う」の計では、10 歳代 (61.6%) が最も多く、次いで 20 歳代 (56.4%)、50 歳代 (45.6%) の順です。逆に、計が最も少ないのが 30 歳代 (37.7%) です。

(人・%)

		合計	問15 学校教育における男女平等に関する教育について				
			十分行わ れている と思う	どちらか というに行わ れていると 思う	どちらか というに行わ れていない と思う	十分に行 われている とは思わ ない	わから ない
全体		791	69	282	78	85	252
		100.0	8.7	35.7	9.9	10.7	31.9
性別	男性	350	41	126	27	38	107
		100.0	11.7	36.0	7.7	10.9	30.6
	女性	435	28	155	50	46	142
		100.0	6.4	35.6	11.5	10.6	32.6
年齢	10歳代	13	4	4	2	1	2
		100.0	30.8	30.8	15.4	7.7	15.4
	20歳代	55	5	26	10	3	11
		100.0	9.1	47.3	18.2	5.5	20.0
	30歳代	77	6	23	11	7	30
		100.0	7.8	29.9	14.3	9.1	39.0
	40歳代	108	14	35	13	13	33
		100.0	13.0	32.4	12.0	12.0	30.6
	50歳代	118	6	49	12	12	38
		100.0	5.1	41.5	10.2	10.2	32.2
	60歳代	206	11	80	14	24	70
		100.0	5.3	38.8	6.8	11.7	34.0
	70歳以上	208	23	63	15	24	66
		100.0	11.1	30.3	7.2	11.5	31.7

(2) 男女平等の推進のために行うとよい学校教育

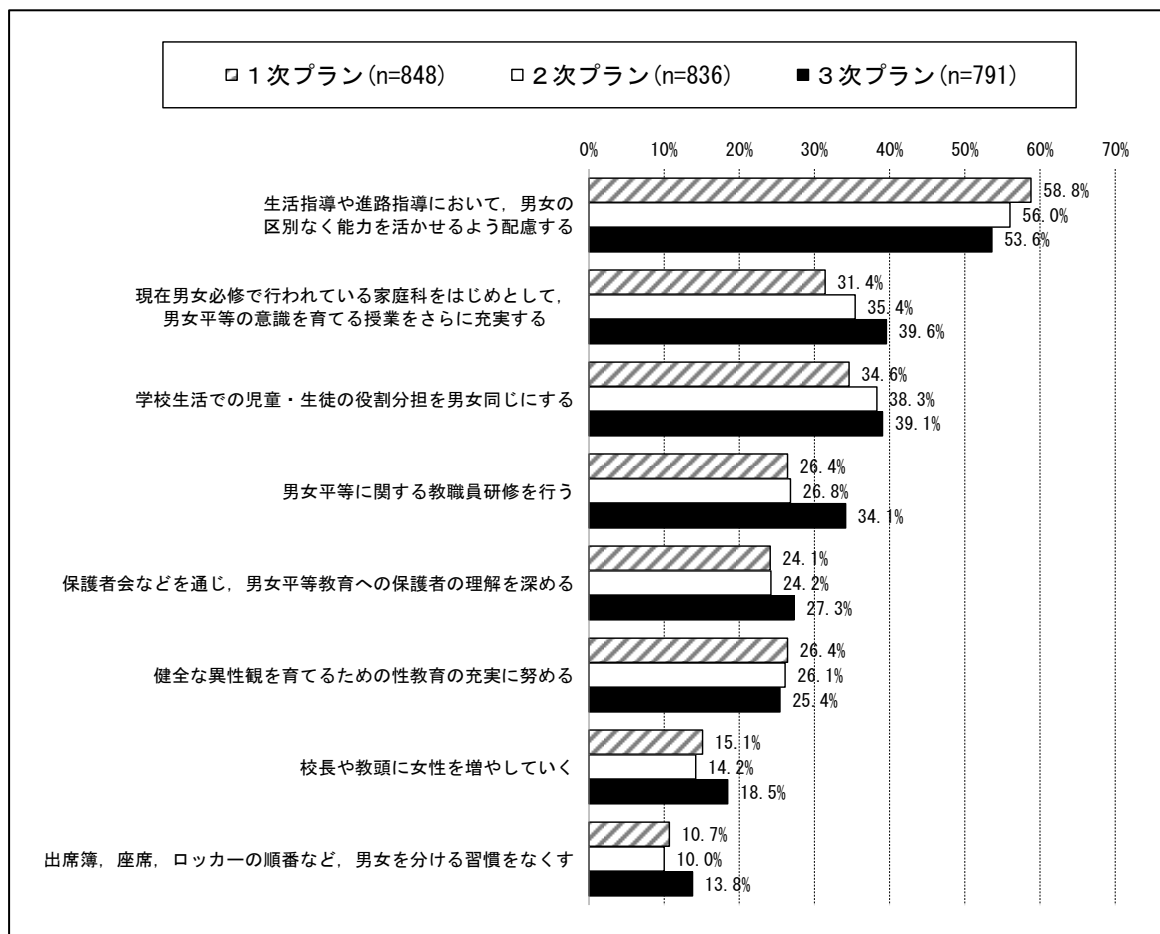
問 16 今後、男女平等を推進していくために、特に小・中・高等学校で行うとよいと思うものはどれですか。【複数回答】

男女平等の推進のために行うとよい学校教育について、今回の調査（3次プラン）では、「生活指導や進路指導において、男女の区別なく能力を活かせるよう配慮する」（53.6%）が最も多く、次いで「現在男女必修で行われている家庭科をはじめとして、男女平等の意識を育てる授業をさらに充実する」（39.6%）、「学校生活での児童・生徒の役割分担を男女同じにする」（39.1%）、「男女平等に関する教職員研修を行う」（34.1%）、「保護者会などを通じ、男女平等教育への保護者の理解を深める」（27.3%）、「健全な異性観を育てるための性教育の充実に努める」（25.4%）の順です。

以下、回答が若干少なく「校長や教頭に女性を増やしていく」（18.5%）、「出席簿、座席、ロッカーの順番など、男女を分ける習慣をなくす」（13.8%）の順です。

3次プランでは、1次プラン、2次プランに比べ、「生活指導や進路指導において、男女の区別なく能力を活かせるよう配慮する」が減少し、「現在男女必修で行われている家庭科をはじめとして、男女平等の意識を育てる授業をさらに充実する」、「学校生活での児童・生徒の役割分担を男女同じにする」、「男女平等に関する教職員研修を行う」、「保護者会などを通じ、男女平等教育への保護者の理解を深める」が増加しています。

＜男女平等の推進のために行うとよい学校教育（1・2・3次プラン）



男女別では、男性・女性とも、順は違いますが4位以内は同じ項目です。1位の「生活指導や進路指導における区別のない配慮」では、男性に比べ女性の回答が8.6ポイント多くなっています。

年齢別にみると、10歳代は「学校生活で役割分担を男女同じにする」(61.5%)が最も多く、全体の1位の「生活指導や進路指導における区別のない配慮」(23.1%)は5位です。20歳代は「生活指導や進路指導における区別のない配慮」・「男女平等の意識を育てる授業の充実」(50.9%)が同率1位です。

※表の表示スペース上、項目の文章を要約しています。

(人・%)

		合計	問16 男女平等の推進のために行うとよい学校教育							
			男女平等に関する教職員研修	校長や教頭に女性を増やしていく	学校生活での役割分担を男女同じにする	生活指導や進路指導における区別のない配慮	男女平等の意識を育てる授業の充実	健全な異性観を育てるための性教育の充実	出席簿の順番など男女を分ける習慣をなくす	男女平等教育への保護者の理解を深める
全体		791	270	146	309	424	313	201	109	216
		100.0	34.1	18.5	39.1	53.6	39.6	25.4	13.8	27.3
性別	男性	350	132	56	133	171	125	77	47	102
		100.0	37.7	16.0	38.0	48.9	35.7	22.0	13.4	29.1
	女性	435	134	89	173	250	185	122	58	112
		100.0	30.8	20.5	39.8	57.5	42.5	28.0	13.3	25.7
年齢	10歳代	13	4	4	8	3	4	3	3	2
		100.0	30.8	30.8	61.5	23.1	30.8	23.1	23.1	15.4
	20歳代	55	18	16	26	28	28	15	15	9
		100.0	32.7	29.1	47.3	50.9	50.9	27.3	27.3	16.4
	30歳代	77	23	19	26	37	35	24	13	12
		100.0	29.9	24.7	33.8	48.1	45.5	31.2	16.9	15.6
	40歳代	108	35	26	47	52	52	23	16	25
		100.0	32.4	24.1	43.5	48.1	48.1	21.3	14.8	23.1
	50歳代	118	42	23	44	60	51	18	18	33
		100.0	35.6	19.5	37.3	50.8	43.2	15.3	15.3	28.0
	60歳代	206	73	26	79	131	78	60	24	65
		100.0	35.4	12.6	38.3	63.6	37.9	29.1	11.7	31.6
	70歳以上	208	71	30	75	110	61	55	16	67
		100.0	34.1	14.4	36.1	52.9	29.3	26.4	7.7	32.2

4 社会生活における男女共同参画について

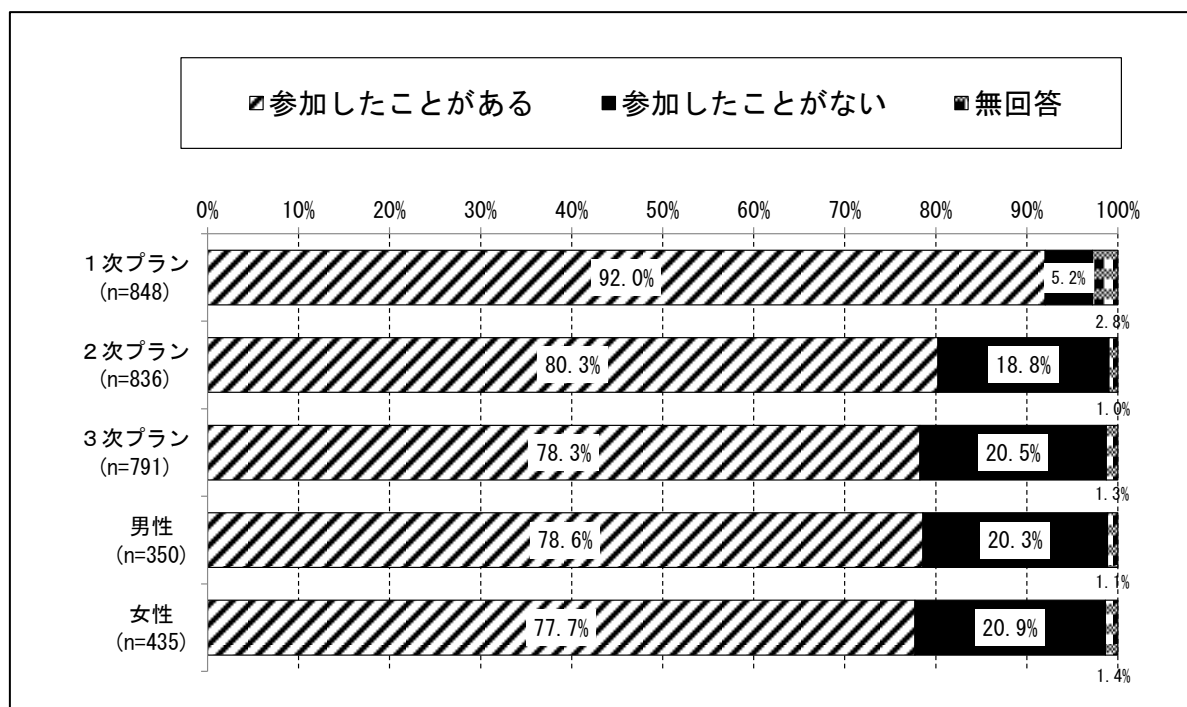
(1) 地域活動や地域行事への参加経験

問 17 あなたは今までに、地域活動や地域行事に参加したことがありますか。

地域活動や地域行事への参加経験について、今回の調査（3次プラン）では、「参加したことがある」（78.3%）が圧倒的に多く、「参加したことはない」は20.5%です。

3次プランでは、1次プラン、2次プランに比べ「参加したことがある」が減少しています。男女別では、男性は若干「参加したことがある」が多くなっています。

<地域活動や地域行事への参加経験（1・2・3次プラン、性別）>



(2) 参加したことのある地域活動や地域行事

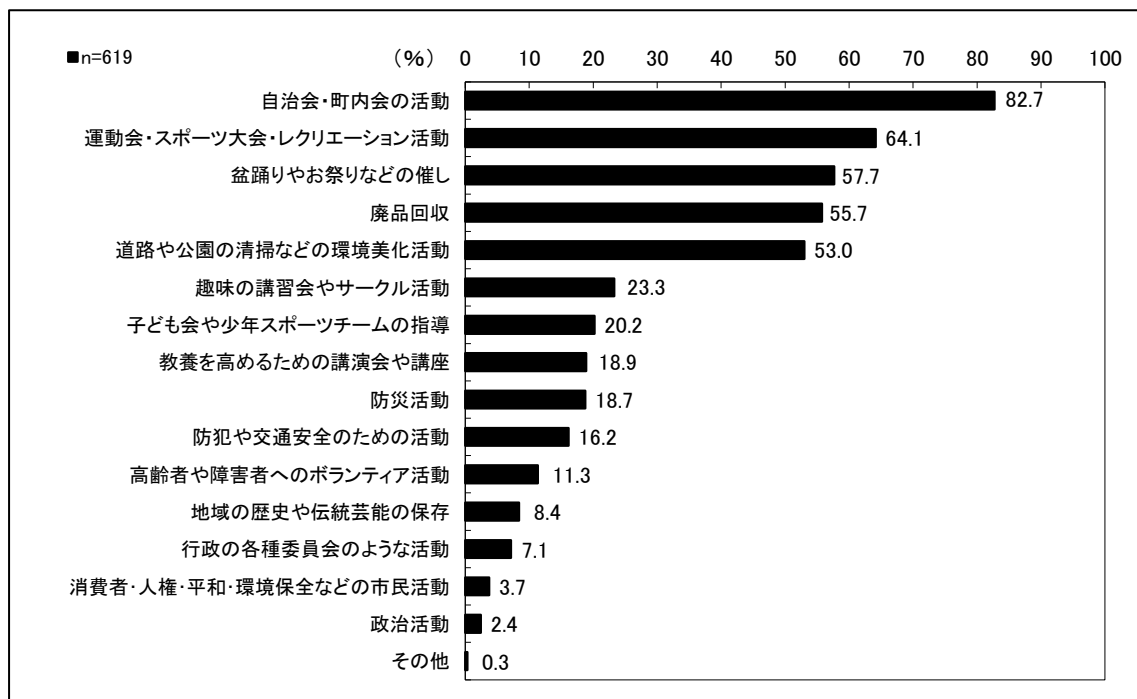
＜問 17 で「1」と回答した方にお聞きます。＞

問 17-1 それは、どんな地域活動や地域行事ですか。【複数回答】

問 17 で「1. 参加したことがある」と回答した方の参加したことのある地域活動や地域行事は、「自治会・町内会の活動」(82.7%) が最も多く、次いで「運動会・スポーツ大会・レクリエーション活動」(64.1%)、「盆踊りやお祭りなどの催し」(57.7%)、「廃品回収」(55.7%)、「道路や公園の清掃などの環境美化活動」(53.0%) の順です。

以下、回答が若干少なく「趣味の講習会やサークル活動」(23.3%)、「子ども会や少年スポーツチームの指導」(20.2%)、「教養を高めるための講演会や講座」(18.9%)、「防災活動」(18.7%)、「防犯や交通安全のための活動」(16.2%)、「高齢者や障害者へのボランティア活動」(11.3%)、「地域の歴史や伝統芸能の保存」(8.4%)、「行政の各種委員会のような活動」(7.1%)、「消費者・人権・平和・環境保全などの市民活動」(3.7%)、「政治活動」(2.4%) の順です。

＜参加したことのある地域活動や地域行事＞



1次プラン、2次プランと同様に、1位は「自治会・町内会の活動」、2位は「運動会・スポーツ大会・レクリエーション活動」です。順位は違いますが、5位までは同様の項目が選ばれています。

■参加したことがある地域活動や地域行事（1・2・3次プラン、上位5位までの回答）

順位	1次プラン	2次プラン	3次プラン
1	自治会・町内会の活動 (72.3%)	自治会・町内会の活動 (84.2%)	自治会・町内会の活動 (82.7%)
2	運動会・スポーツ大会・レクリエーション活動 (63.1%)	運動会・スポーツ大会・レクリエーション活動 (63.9%)	運動会・スポーツ大会・レクリエーション活動 (64.1%)
3	盆踊りやお祭りなどの催し (57.8%)	廃品回収 (58.3%)	盆踊りやお祭りなどの催し (57.7%)
4	廃品回収 (55.5%)	盆踊りやお祭りなどの催し (58.0%)	廃品回収 (55.7%)
5	道路や公園の清掃などの環境美化活動 (43.5%)	道路や公園の清掃などの環境美化活動 (53.8%)	道路や公園の清掃などの環境美化活動 (53.0%)

(3) 地域活動に参加したことがない理由

＜問 17 で「2」と回答した方にお聞きします。＞

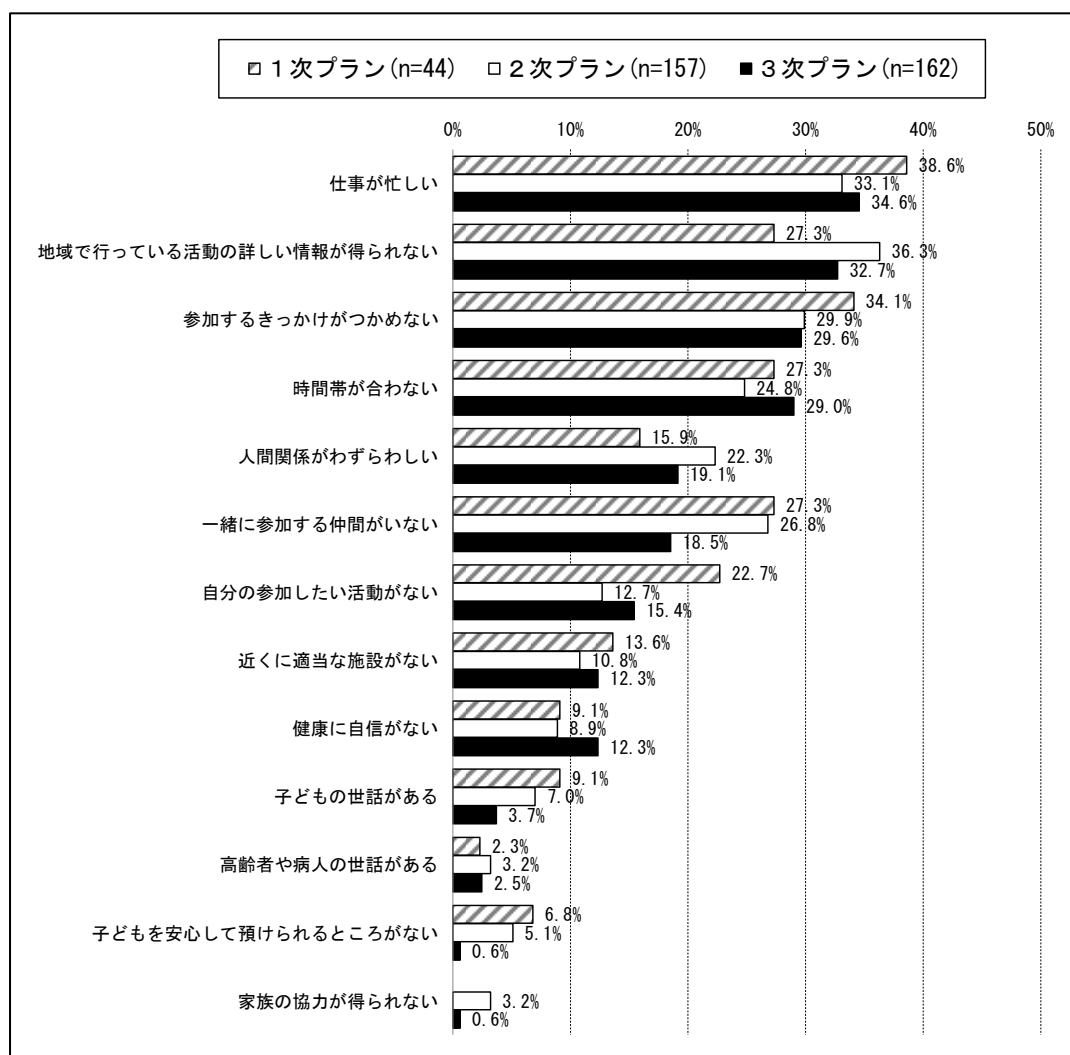
問 17-2 これまで、地域活動に参加したことがない理由は何ですか。【複数回答】

問 17 で「2. 参加したことはない」と回答した方のその理由は、今回の調査（3次プラン）では、「仕事が忙しい」（34.6%）,「地域で行っている活動の詳しい情報が得られない」（32.7%）,「参加するきっかけがつかめない」（29.6%）,「時間帯が合わない」（29.0%）が多く、次いで「人間関係がわずらわしい」（19.1%）,「一緒に参加する仲間がいない」（18.5%）,「自分の参加したい活動がない」（15.4%）,「近くに適切な施設がない」・「健康に自信がない」（同率 12.3%）の順です。

以下、回答が若干少なく「子どもの世話がある」（3.7%）,「高齢者や病人の世話がある」（2.5%）,「子どもを安心して預けられるところがない」・「家族の協力が得られない」（同率 0.6%）の順です。

3次プランは、2次プランに比べ「仕事が忙しい」,「時間帯が合わない」,「自分の参加したい活動がない」が増加し,「地域で行っている活動の詳しい情報が得られない」,「人間関係がわずらわしい」,「一緒に参加する仲間がいない」が減少しています。

＜地域活動に参加したことがない理由（1・2・3次プラン）＞



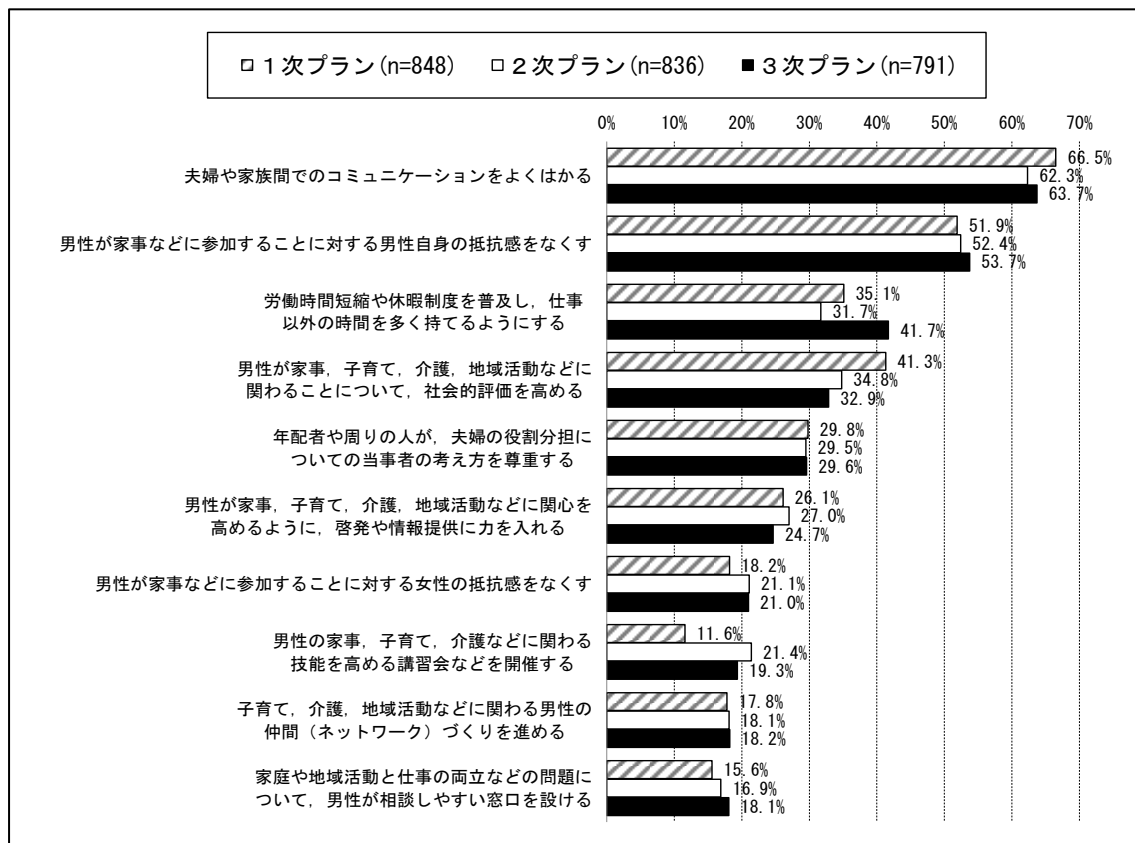
(4) 男性の子育てや地域活動参加のために必要なこと

問 18 今後、男性が女性とともに家事、子育て、介護、地域活動に積極的に参加していくためには、どのようなことが必要だと思いますか。【複数回答】

男性の子育てや地域活動参加のために必要なことについて、今回の調査（3次プラン）では、「夫婦や家族間でのコミュニケーションをよくはかる」（63.7%）、「男性が家事などに参加することに対する男性自身の抵抗感をなくす」（53.7%）が多く、次いで「労働時間短縮や休暇制度を普及し、仕事以外の時間を多く持てるようにする」（41.7%）、「男性が家事、子育て、介護、地域活動などに関わることにについて、社会的評価を高める」（32.9%）、「年配者や周りの人が、夫婦の役割分担についての当事者の考え方を尊重する」（29.6%）、「男性が家事、子育て、介護、地域活動などに関心を高めるように、啓発や情報提供に力を入れる」（24.7%）、「男性が家事などに参加することに対する女性の抵抗感をなくす」（21.0%）、「男性の家事、子育て、介護などに関わる技能を高める講習会などを開催する」（19.3%）、「子育て、介護、地域活動などに関わる男性の仲間（ネットワーク）づくりを進める」（18.2%）、「家庭や地域活動と仕事の両立などの問題について、男性が相談しやすい窓口を設ける」（18.1%）の順です。

3次プランは、2次プランに比べ「夫婦や家族間でのコミュニケーションをよくはかる」、「男性が家事などに参加することに対する男性自身の抵抗感をなくす」、「労働時間短縮や休暇制度を普及し、仕事以外の時間を多く持てるようにする」が増加し、「男性が家事、子育て、介護、地域活動などに関わることにについて、社会的評価を高める」が減少しています。

<男性の子育てや地域活動参加のために必要なこと（1・2・3次プラン）>



男女別では、女性は全体の傾向と類似しています。男性は「家事などへの男性自身の抵抗感をなくす」や「男性の家事参加などへの社会的評価を高める」、「年配者や周りの人が当事者の考え方を尊重」などで女性に比べ比率が下がっています。

年齢別では、どの年代でも「夫婦や家族間のコミュニケーション」、「家事などへの男性自身の抵抗感をなくす」が高い比率です。20 歳代、30 歳代、40 歳代で「労働時間短縮や休暇制度の普及」が全体に比べ高い比率です。

※表の表示スペース上、項目の文章を要約しています。

(人・%)

		合計	問18 男性の子育てや地域活動参加のために必要なこと									
			家事などへの男性自身の抵抗感をなくす	男性の参加に対する女性の抵抗感をなくす	夫婦や家族間のコミュニケーション	年配者や周りの人が当事者の考え方を尊重	男性の家事参加などへの社会的評価を高める	労働時間短縮や休暇制度の普及	男性の関心を高める啓発や情報提供	男性の技能を高める講習会などの開催	地域活動などに関わる男性の仲間づくり	男性が相談しやすい窓口の設置
全体		791	425	166	504	234	260	330	195	153	144	143
		100.0	53.7	21.0	63.7	29.6	32.9	41.7	24.7	19.3	18.2	18.1
性別	男性	350	164	70	215	77	99	148	73	58	56	54
		100.0	46.9	20.0	61.4	22.0	28.3	42.3	20.9	16.6	16.0	15.4
	女性	435	259	93	287	155	159	180	121	94	87	87
		100.0	59.5	21.4	66.0	35.6	36.6	41.4	27.8	21.6	20.0	20.0
年齢	10歳代	13	8	2	9	3	5	5	3	2	1	2
		100.0	61.5	15.4	69.2	23.1	38.5	38.5	23.1	15.4	7.7	15.4
	20歳代	55	34	16	40	15	18	32	8	9	12	13
		100.0	61.8	29.1	72.7	27.3	32.7	58.2	14.5	16.4	21.8	23.6
	30歳代	77	41	14	55	26	34	43	16	13	13	13
		100.0	53.2	18.2	71.4	33.8	44.2	55.8	20.8	16.9	16.9	16.9
	40歳代	108	55	16	62	34	46	63	24	18	20	16
		100.0	50.9	14.8	57.4	31.5	42.6	58.3	22.2	16.7	18.5	14.8
	50歳代	118	63	31	70	35	40	50	27	16	19	16
		100.0	53.4	26.3	59.3	29.7	33.9	42.4	22.9	13.6	16.1	13.6
	60歳代	206	119	44	139	64	65	83	62	51	42	41
		100.0	57.8	21.4	67.5	31.1	31.6	40.3	30.1	24.8	20.4	19.9
	70歳以上	208	102	40	126	55	50	51	53	42	35	39
		100.0	49.0	19.2	60.6	26.4	24.0	24.5	25.5	20.2	16.8	18.8

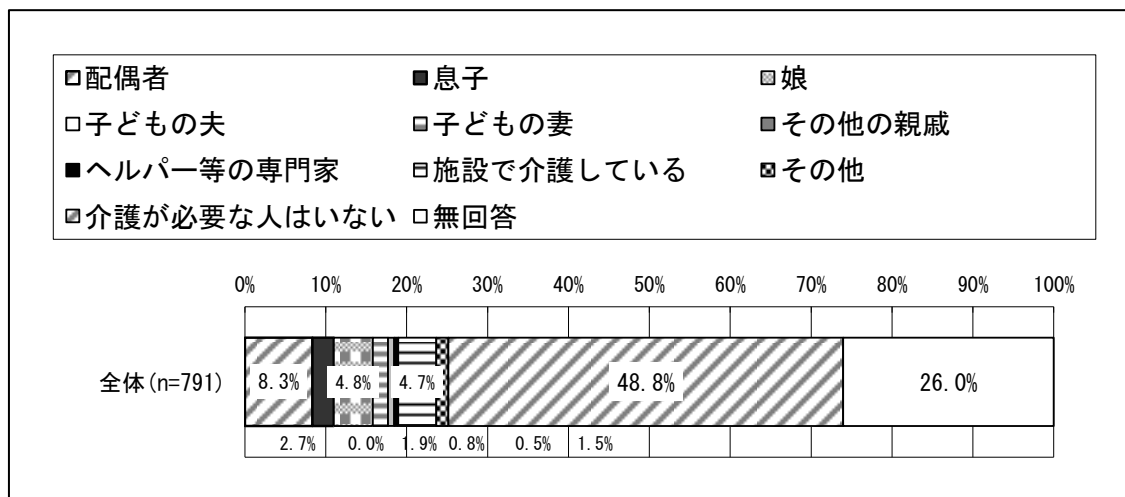
5 健康や福祉に関することについて

(1) 家族内の要介護者を主に介護している人

問 19 現在、あなたの家族に介護が必要な方がおられる場合、その方の介護は主にどなたが行っていますか。介護が必要な方からみた続柄でお答えください。

家族内の要介護者を主に介護している人については、「介護が必要な人はいない」(48.8%) が最も多い回答ですが、これを除くと「配偶者」(8.3%), 「娘」(4.8%), 「施設で介護している」(4.7%), 「息子」(2.7%), 「子どもの妻」(1.9%), 「その他の親戚」(0.8%), 「ヘルパー等の専門家」(0.5%) の順です。

<家族内の要介護者を主に介護している人>



1次プラン、2次プラン、3次プランとも傾向は似ていますが、順次、「配偶者」の比率が減少し、「施設で介護している」の比率が増加しています。

■主に介護を行っている方（1・2・3次プラン、上位5位までの回答）

順位	1次プラン	2次プラン	3次プラン
1	配偶者(10.3%)	配偶者(9.9%)	配偶者(8.3%)
2	娘(4.6%)	施設で介護している(4.4%)	娘(4.8%)
3	子どもの妻(3.5%)	娘(4.3%)	施設で介護している(4.7%)
4	施設で介護している(3.1%)	息子(2.9%)	息子(2.7%)
5	息子(2.0%)	子どもの妻(2.3%)	子どもの妻(1.9%)

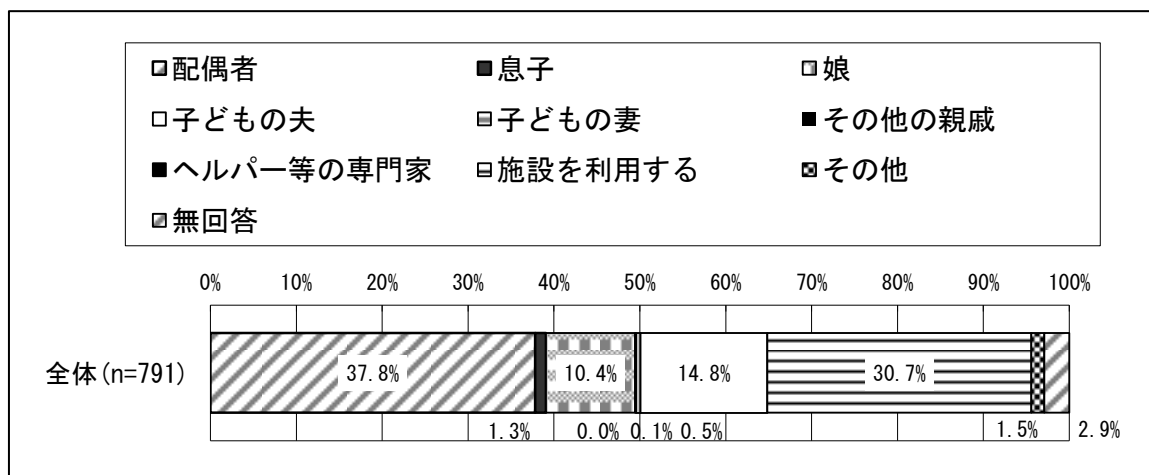
(2) 自身が要介護となった場合に介護してほしい人

問 20 あなた自身に介護が必要となった場合、主に誰に介護をしてほしいですか。

自身が要介護となった場合に介護してほしい人については、「配偶者」(37.8%)、「施設を利用する」(30.7%)が多く、次いで「ヘルパー等の専門家」(14.8%)、「娘」(10.4%)の順です。

以下、回答が少なく「息子」(1.3%)、「その他の親戚」(0.5%)、「子どもの妻」(0.1%)の順です。

<自身が要介護となった場合に介護してほしい人>



1次プラン、2次プラン、3次プランの順位は同一ですが、順次、「配偶者」の比率が減少し、「施設を利用する」、「ヘルパー等の専門家」の比率が増加しています。

■主に介護をして欲しい方（1・2・3次プラン、上位5位までの回答／「その他」を除く）

順位	1次プラン	2次プラン	3次プラン
1	配偶者(43.2%)	配偶者(39.5%)	配偶者(37.8%)
2	施設を利用する(25.4%)	施設を利用する(27.8%)	施設を利用する(30.7%)
3	ヘルパー等の専門家(12.6%)	ヘルパー等の専門家(11.8%)	ヘルパー等の専門家(14.8%)
4	娘(10.7%)	娘(9.2%)	娘(10.4%)
5	息子(1.7%)	息子(2.2%)	息子(1.3%)

(3) 健康診断やがん検診の受診状況

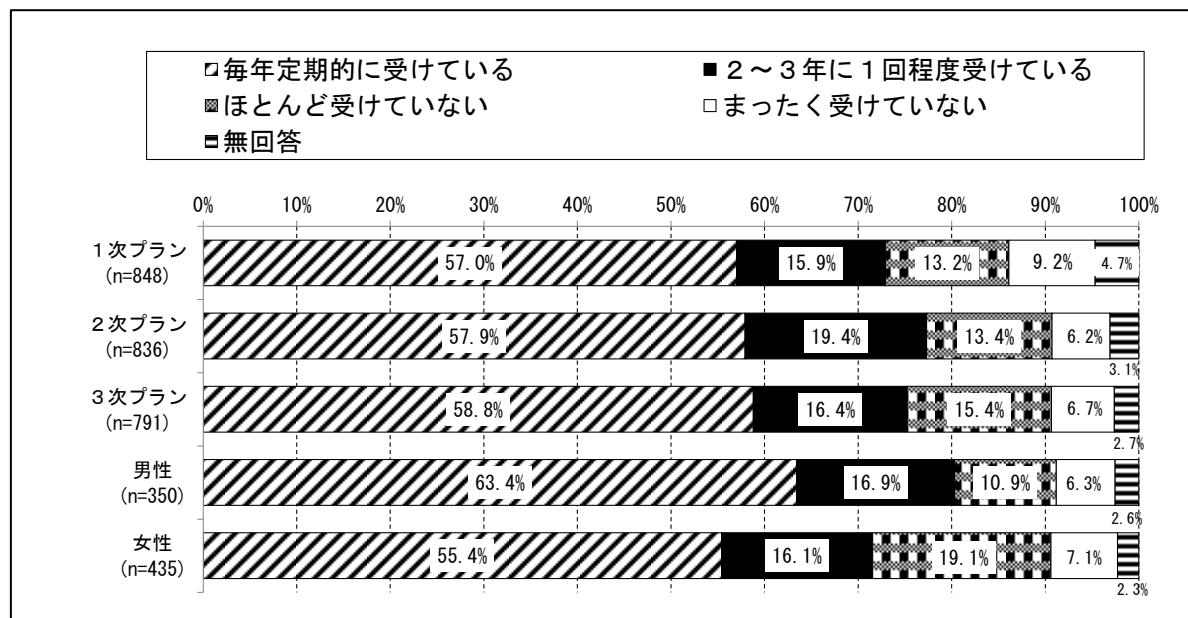
問 21 あなたは、健康診断やがん検診を受けていますか。

健康診断やがん検診の受診状況について、今回の調査（3次プラン）では、「毎年定期的に受けている」（58.8%）が6割弱と多く、次いで「2～3年に1回程度受けている」（16.4%）、「ほとんど受けていない」（15.4%）、「まったく受けていない」（6.7%）の順です。

3次プランでは、1次プラン、2次プランに比べ「毎年定期的に受けている」が微増していますが、一方で「ほとんど受けていない」も増加しています。

男女別では、男性（63.4%）に対し女性（55.4%）の「毎年定期的に受けている」が8.0ポイント低くなっています。

<健康診断やがん検診の受診状況（1・2・3次プラン、性別）>



(4) 受診していない理由

<問 21 で「3」または「4」と回答した方にお聞きします。>

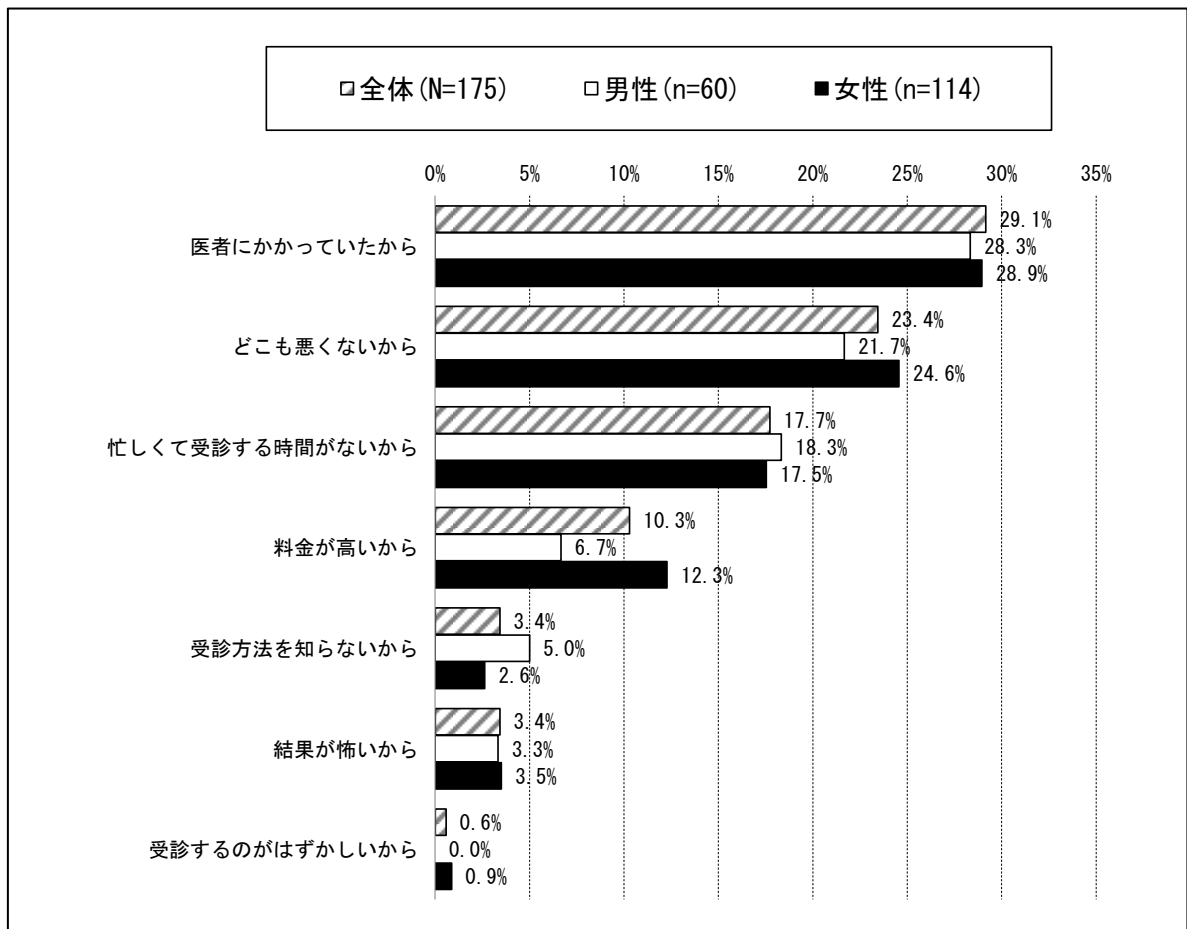
問 21-1 受診していないのはなぜですか。

問 21 で「3. ほとんど受けていない」または「4. まったく受けていない」と回答した方のその理由は、今回の調査（3次プラン）では、「医者にかかっていたから」（29.1%）、「どこも悪くないから」（23.4%）、「忙しくて受診する時間がないから」（17.7%）、「料金が高いから」（10.3%）の順です。

以下、回答が少なく「受診方法を知らないから」・「結果が怖いから」（同率 3.4%）、「受診するのがはずかしいから」（0.6%）の順です。

男女別では、男性に比べ女性は「医者にかかっていたから」、「どこも悪くないから」、「料金が高いから」で比率が高くなっています。

<受診していない理由（全体、性別）>



1次プラン，2次プラン，3次プランともほぼ同様の傾向ですが，「医者にかかっていたから」が増加傾向です。

■健康診断やがん検診を受診していない理由（1・2・3次プラン，上位5位までの回答／「その他」を除く）

順位	1次プラン	2次プラン	3次プラン
1	どこも悪くないから (30.0%)	医者にかかっていたから (25.0%)	医者にかかっていたから (29.1%)
2	忙しくて受診する時間がないから(20.0%)	どこも悪くないから (24.4%)	どこも悪くないから (23.4%)
3	医者にかかっていたから (13.2%)	忙しくて受診する時間がないから(16.5%)	忙しくて受診する時間がないから (17.7%)
4	料金が安いから(12.6%)	料金が安いから(11.6%)	料金が安いから (10.3%)
5	結果が怖いから(6.3%)	結果が怖いから(6.1%)	受診方法を知らないから・結果が怖いから (同率 3.4%)

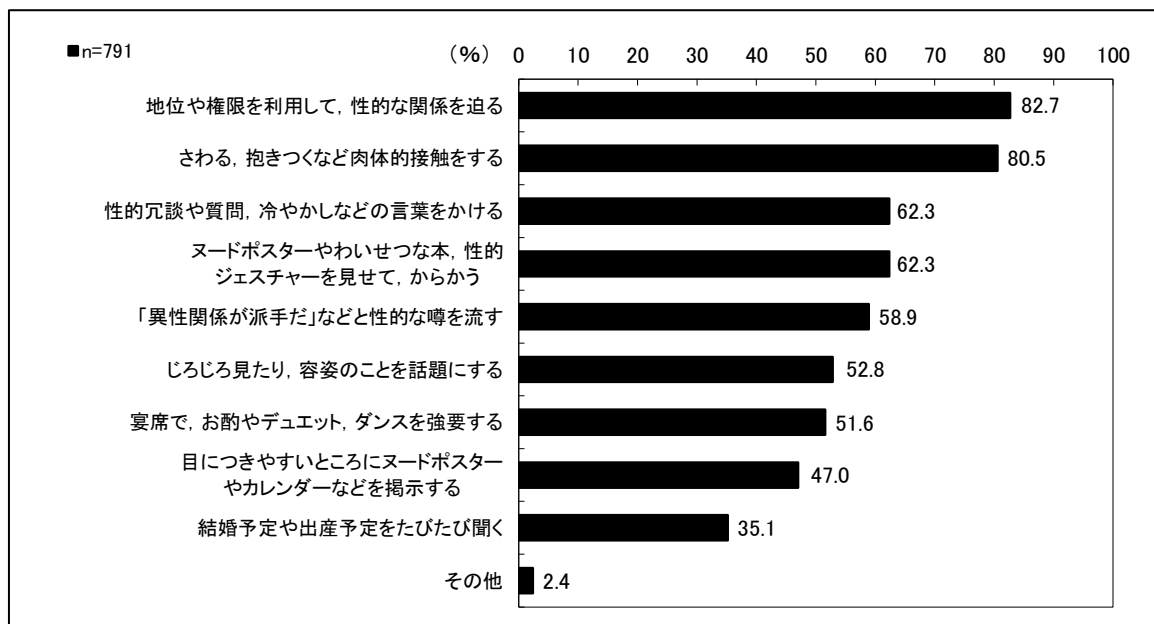
6 男女の人権に対する問題について

(1) セクシュアル・ハラスメントに該当する行為

問 22 職場や学校での性的いやがらせ（セクシュアル・ハラスメント）が男女の人権を侵害する問題として注目を集めています。次のうちで、あなたがセクシュアル・ハラスメントだと思うものはどれですか。【複数回答】

セクシュアル・ハラスメントに該当する行為については、「地位や権限を利用して、性的な関係を迫る」(82.7%)、「さわる、抱きつくなど肉体的接触をする」(80.5%)が8割を超えて多く、次いで「性的冗談や質問、冷やかしの言葉をかける」(62.3%)、「ヌードポスターやわいせつな本、性的ジェスチャーを見せて、からかう」(62.3%)、「異性関係が派手だ」などと性的な噂を流す」(58.9%)、「じろじろ見たり、容姿のことを話題にする」(52.8%)、「宴席で、お酌やデュエット、ダンスを強要する」(51.6%)、「目につきやすいところにヌードポスターやカレンダーなどを掲示する」(47.0%)、「結婚予定や出産予定をたびたび聞く」(35.1%)の順です。

＜セクシュアル・ハラスメントに該当する行為＞



3次プランは、2次プランと同様の順位ですが、多くの項目で比率が増加しています。

■セクシュアル・ハラスメントに該当するもの（1・2・3次プラン、上位5位までの回答）

順位	1次プラン	2次プラン	3次プラン
1	地位や権限を利用して性的な関係を迫る(78.5%)	地位や権限を利用して性的な関係を迫る(78.8%)	地位や権限を利用して性的な関係を迫る(82.7%)
2	さわる、抱きつくなど肉体的接触をする(74.2%)	さわる、抱きつくなど肉体的接触をする(73.8%)	さわる、抱きつくなど肉体的接触をする(80.5%)
3	ヌードポスターやわいせつな本などを見せる(54.8%)	性的冗談や冷やかしの言葉をかける(53.9%)	性的冗談や冷やかしの言葉をかける(62.3%)
4	性的冗談や冷やかしの言葉をかける(51.4%)	ヌードポスターやわいせつな本などを見せる(54.8%)	ヌードポスターやわいせつな本などを見せる(54.8%)
5	「異性関係が派手だ」などと性的な噂を流す(49.1%)	「異性関係が派手だ」などと性的な噂を流す(50.1%)	「異性関係が派手だ」などと性的な噂を流す(58.9%)

男女別では、傾向は同様ですが、男性に比べ女性の回答が5ポイント以上多い項目は、「性的冗談や冷やかしの言葉をかける」、「じろじろ見たり容姿のことを話題にする」、「異性関係が派手だ」などと性的な噂を流す」です。

年齢別では、10歳代が他の年代と傾向が異なり、3位に「宴席でお酌やデュエット、ダンスを強要する」が入っており、「性的冗談や冷やかしの言葉をかける」、「ヌードポスターやわいせつな本などを見せる」、「じろじろ見たり容姿のことを話題にする」が他の年代に比べて比率が小さくなっています。70歳以上も傾向が異なり、どの項目も他の年代より比率が小さくなっています。

※表の表示スペース上、項目の文章を要約しています。

(人・%)

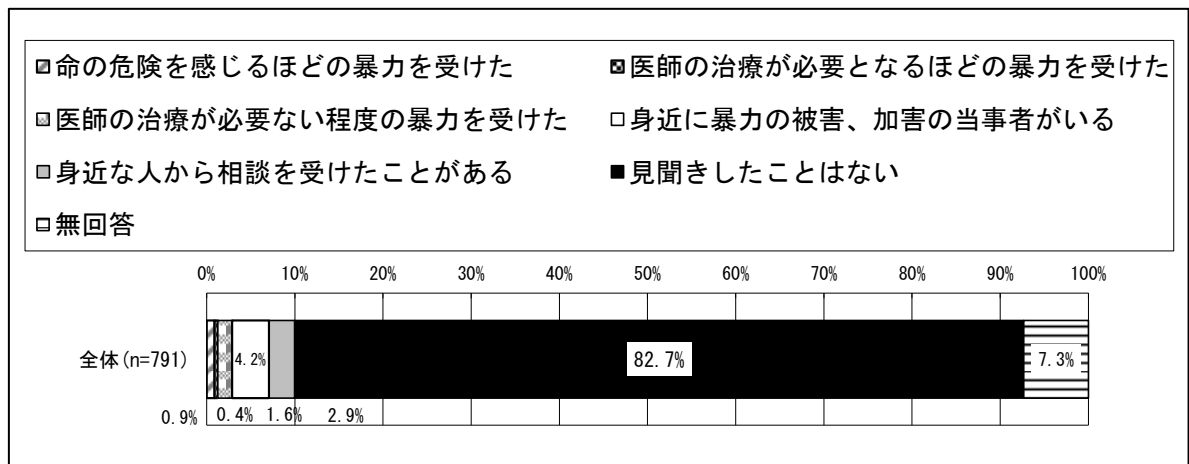
		合計	問22 セクシュアル・ハラスメントに該当する行為								
			地位や権限を利用して性的な関係を迫る	さわる、抱きつくなど肉体的接触をする	性的冗談や冷やかしの言葉をかける	ヌードポスターやわいせつ本などを見せる	宴席でお酌やデュエット、ダンスを強要する	結婚予定や出産予定をたびたび聞く	目につくところにヌードポスターなどを掲示する	じろじろ見たり容姿のことを話題にする	「異性関係が派手だ」などと性的な噂を流す
全体		791 100.0	654 82.7	637 80.5	493 62.3	493 62.3	408 51.6	278 35.1	372 47.0	418 52.8	466 58.9
性別	男性	350 100.0	288 82.3	275 78.6	208 59.4	212 60.6	174 49.7	126 36.0	168 48.0	172 49.1	194 55.4
	女性	435 100.0	361 83.0	358 82.3	281 64.6	277 63.7	231 53.1	150 34.5	201 46.2	244 56.1	269 61.8
年齢	10歳代	13 100.0	13 100.0	11 84.6	6 46.2	5 38.5	8 61.5	3 23.1	2 15.4	5 38.5	7 53.8
	20歳代	55 100.0	50 90.9	51 92.7	33 60.0	40 72.7	27 49.1	22 40.0	34 61.8	35 63.6	37 67.3
	30歳代	77 100.0	71 92.2	66 85.7	53 68.8	56 72.7	43 55.8	38 49.4	54 70.1	50 64.9	59 76.6
	40歳代	108 100.0	98 90.7	99 91.7	72 66.7	80 74.1	58 53.7	36 33.3	60 55.6	60 55.6	73 67.6
	50歳代	118 100.0	112 94.9	102 86.4	86 72.9	83 70.3	73 61.9	51 43.2	63 53.4	78 66.1	78 66.1
	60歳代	206 100.0	165 80.1	174 84.5	134 65.0	128 62.1	120 58.3	72 35.0	86 41.7	106 51.5	120 58.3
	70歳以上	208 100.0	139 66.8	129 62.0	104 50.0	96 46.2	75 36.1	53 25.5	69 33.2	81 38.9	88 42.3

(2) 配偶者・パートナー間の暴力について

問 23 最近、配偶者・パートナー間での暴力が問題となっていますが、身近で見聞きしたことがありますか。

配偶者・パートナー間の暴力については、「見聞きしたことはない」(82.7%)が最も多い回答ですが、これを除くと「身近に暴力の被害、加害の当事者がいる」(4.2%),「身近な人から相談を受けたことがある」(2.9%),「医師の治療が必要ない程度の暴力を受けた」(1.6%),「命の危険を感じるほどの暴力を受けた」(0.9%),「医師の治療が必要となるほどの暴力を受けた」(0.4%)の順です。

<配偶者・パートナー間の暴力について>



1次プラン、2次プラン、3次プランともに傾向は類似していますが、上位項目で回答の比率が下がっています。

※表の表示スペース上、項目の文章を要約しています。

■配偶者・パートナー間での暴力（1・2・3次プラン、上位5位までの回答）

順位	1次プラン	2次プラン	3次プラン
1	身近に暴力の被害、加害の当事者がいる(7.5%)	身近に暴力の被害、加害の当事者がいる(5.4%)	身近に暴力の被害、加害の当事者がいる(4.2%)
2	身近な人から相談を受けたことがある(3.9%)	身近な人から相談を受けたことがある(3.1%)	身近な人から相談を受けたことがある(2.9%)
3	医師の治療が必要ない程度の暴力を受けた(2.4%)	医師の治療が必要ない程度の暴力を受けた(2.2%)	医師の治療が必要ない程度の暴力を受けた(1.6%)
4	医師の治療が必要となるほどの暴力を受けた(0.8%)	医師の治療が必要となるほどの暴力を受けた(1.1%)	命の危険を感じるほどの暴力を受けた(0.9%)
5	命の危険を感じるほどの暴力を受けた(0.2%)	命の危険を感じるほどの暴力を受けた(0.4%)	医師の治療が必要となるほどの暴力を受けた(0.4%)

※「見聞きしたことがない」を除く（1次プラン:77.4%, 2次プラン:78.8%, 3次プラン:82.7%）

(3) 暴力について打ち明けたり相談したこと

<問 23 で「1」～「5」と回答した方にお聞きします。>

問 23-1 これまでに暴力について誰かに打ち明けたり、相談したことはありますか。

【複数回答】

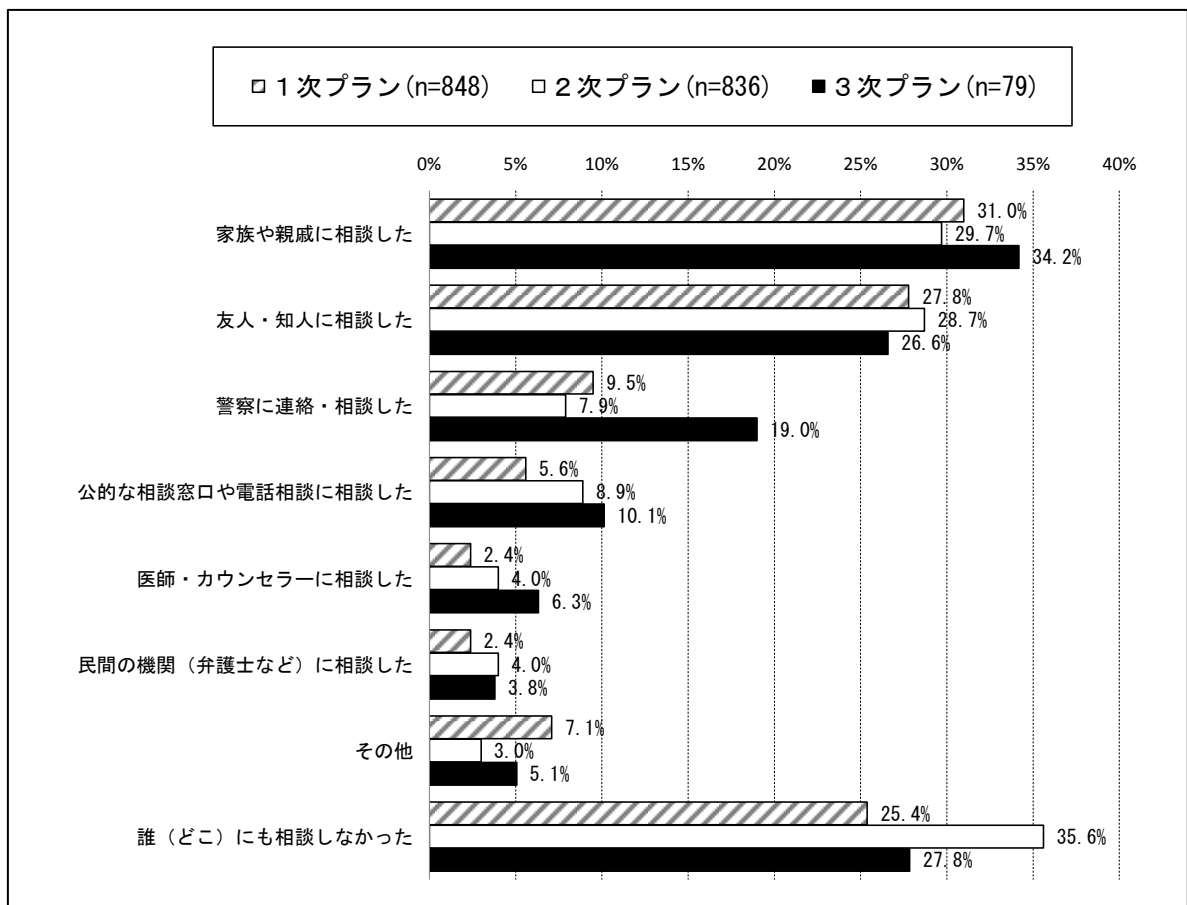
問 23 で「1」～「5」（暴力について実際に経験、見聞き、相談を受けた）と回答した方に、そのことを打ち明けたり相談したかどうかをたずねたところ、今回の調査（3次プラン）では、「家族や親戚に相談した」（34.2%）が最も多く、次いで「友人・知人に相談した」（26.6%）、「警察に連絡・相談した」（19.0%）、「公的な相談窓口や電話相談に相談した」（10.1%）の順です。

以下、回答が少なく「医師・カウンセラーに相談した」（6.3%）、「民間の機関（弁護士など）に相談した」（3.8%）の順です。

なお、「誰（どこ）にも相談しなかった」は27.8%と多い回答です。

3次プランでは、1次プラン、2次プランに比べ「警察に連絡・相談した」が大幅に増加し、「家族や親戚に相談した」、「公的な相談窓口や電話相談に相談した」も増加しています。

<暴力について打ち明けたり相談したこと（1・2・3次プラン）>



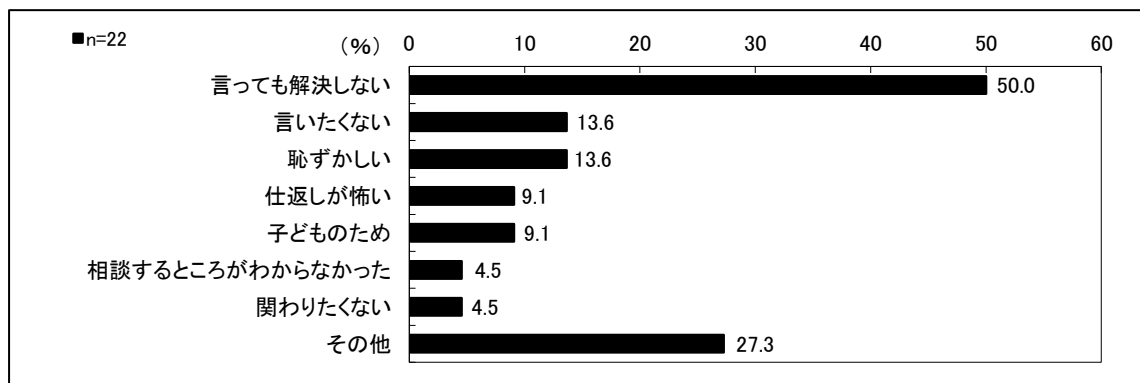
(4) どこにも相談しなかった理由

＜問 23－1 で「8」と回答した方にお聞きします。＞

問 23－2 どこにも相談しなかった理由はどのようなことですか。【複数回答】

問 23－1 で「8. 誰（どこ）にも相談しなかった」と回答した方の理由は、「言っても解決しない」（50.0%）が圧倒的に多く、次いで「言いたくない」・「恥ずかしい」（同率 13.6%）, 「仕返しが怖い」・「子どものため」（同率 9.1%）, 「相談するところがわからなかった」・「関わりたくない」（同率 4.5%）の順です。

＜どこにも相談しなかった理由＞



1 次プラン, 2 次プラン, 3 次プランともに圧倒的に「言っても解決しない」が 1 位です。3 次プランでは, 「恥ずかしい」が 2 位に入っています。1 次プラン, 2 次プランで多かった「関わりたくない」, 「相談するところがわからなかった」の比率が下がっています。

■配偶者・パートナー間での暴力を相談しなかった理由（1・2・3 次プラン, 上位 5 位までの回答）

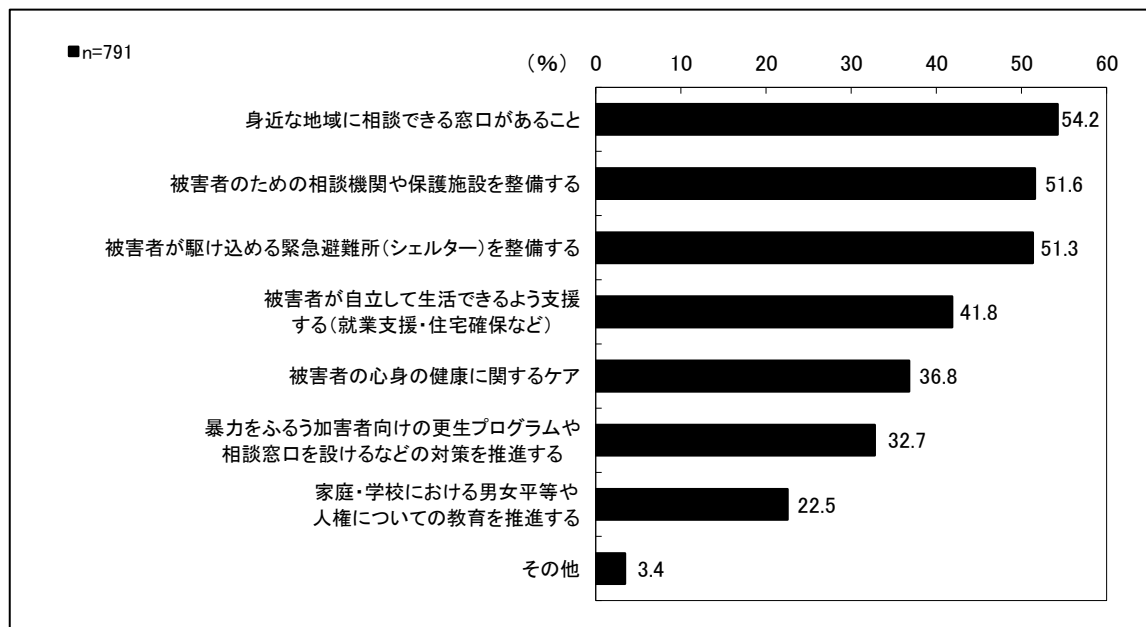
順位	1 次プラン	2 次プラン	3 次プラン
1	言っても解決しない (50.0%)	言っても解決しない (44.4%)	言っても解決しない (50.0%)
2	関わりたくない(15.6%)	言いたくない(27.8%)	言いたくない・恥ずかしい (同率 13.6%)
3	仕返しが怖い(12.5%)	仕返しが怖い(19.4%)	
4	恥ずかしい(12.5%)	関わりたくない(8.3%)	仕返しが怖い・子どものため (同率 9.1%)
5	相談するところがわからなかった(6.3%)	相談するところがわからなかった(8.3%)	

(5) 配偶者の暴力をなくすために必要なこと

問 24 あなたは、配偶者の暴力をなくすためにどのようなことが必要だと思いますか。
【複数回答】

配偶者の暴力をなくすために必要なことについては、「身近な地域に相談できる窓口があること」(54.2%)、「被害者のための相談機関や保護施設を整備する」(51.6%)、「被害者が駆け込める緊急避難所(シェルター)を整備する」(51.3%)が多く、次いで「被害者が自立して生活できるよう支援する(就業支援・住宅確保など)」(41.8%)、「被害者の心身の健康に関するケア」(36.8%)、「暴力をふるう加害者向けの更生プログラムや相談窓口を設けるなどの対策を推進する」(32.7%)、「家庭・学校における男女平等や人権についての教育を推進する」(22.5%)の順です。

<配偶者の暴力をなくすために必要なこと>



男女別では、男女とも3位以内の項目は同じですが、順位、比率は異なります。男性は、全体と同一の順で「身近な地域に相談できる窓口があること」(50.3%)、「被害者のための相談機関や保護施設の整備」(49.4%)、「被害者が駆け込める緊急避難所の整備」(42.3%)の順です。女性は、「被害者が駆け込める緊急避難所の整備」(58.9%)、「身近な地域に相談できる窓口があること」(57.7%)、「被害者のための相談機関や保護施設の整備」(53.6%)の順です。

年齢別では、10歳代は「被害者が駆け込める緊急避難所の整備」(15.4%)が少なく、「被害者の心身の健康に関するケア」(46.2%)が多くなっています。20歳代も同様に「被害者の心身の健康に関するケア」(50.9%)が多くなっています。70歳以上は多くの項目で比率が低めです。

※表の表示スペース上、項目の文章を要約しています。

(人・%)

		合 計	問24 配偶者の暴力をなくすために必要なこと						
			被害者が駆け込める緊急避難所の整備	身近な地域に相談できる窓口があること	被害者のための相談機関や保護施設の整備	家庭・学校での男女平等や人権教育の推進	被害者が自立して生活するための支援	加害者向け更生プログラムや相談窓口の設置	被害者の心身の健康に関するケア
全体		791	406	429	408	178	331	259	291
		100.0	51.3	54.2	51.6	22.5	41.8	32.7	36.8
性別	男性	350	148	176	173	77	126	104	101
		100.0	42.3	50.3	49.4	22.0	36.0	29.7	28.9
	女性	435	256	251	233	100	204	153	189
		100.0	58.9	57.7	53.6	23.0	46.9	35.2	43.4
年齢	10歳代	13	2	9	5	4	5	3	6
		100.0	15.4	69.2	38.5	30.8	38.5	23.1	46.2
	20歳代	55	36	35	28	9	24	27	28
		100.0	65.5	63.6	50.9	16.4	43.6	49.1	50.9
	30歳代	77	45	48	44	15	36	33	35
		100.0	58.4	62.3	57.1	19.5	46.8	42.9	45.5
	40歳代	108	66	62	64	25	53	41	48
		100.0	61.1	57.4	59.3	23.1	49.1	38.0	44.4
	50歳代	118	74	72	73	29	57	40	47
		100.0	62.7	61.0	61.9	24.6	48.3	33.9	39.8
	60歳代	206	110	112	115	48	92	70	71
		100.0	53.4	54.4	55.8	23.3	44.7	34.0	34.5
	70歳以上	208	70	88	77	46	63	42	54
		100.0	33.7	42.3	37.0	22.1	30.3	20.2	26.0

7 男女共同参画の実現について

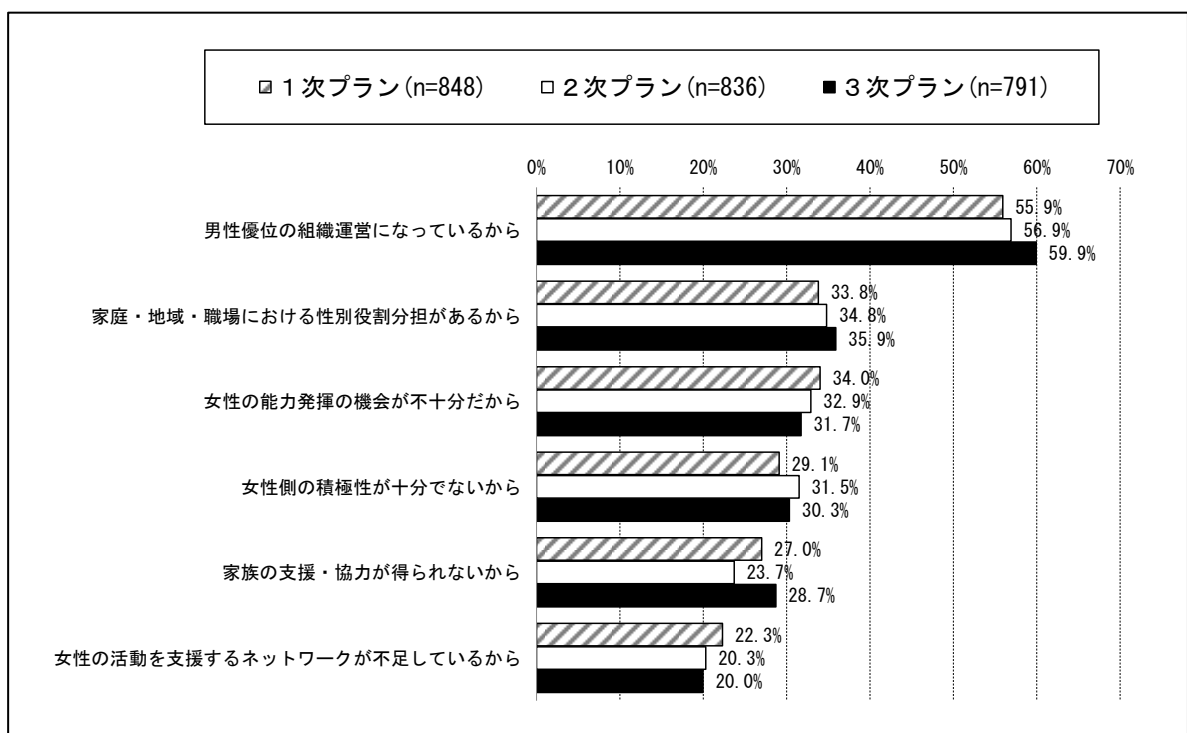
(1) 政策・方針決定の過程に女性が進出していない理由

問 25 あなたは、政策・方針決定の過程に女性があまり進出していない理由は何だと思えますか。【複数回答】

政策・方針決定の過程に女性が進出していない理由について、今回の調査（3次プラン）では、「男性優位の組織運営になっているから」（59.9%）が最も多く、次いで「家庭・地域・職場における性別役割分担があるから」（35.9%）、「女性の能力発揮の機会が不十分だから」（31.7%）、「女性側の積極性が十分でないから」（30.3%）、「家族の支援・協力が得られないから」（28.7%）、「女性の活動を支援するネットワークが不足しているから」（20.0%）の順です。

3次プランでは、1次プラン、2次プランに比べ、「男性優位の組織運営になっているから」や「家庭・地域・職場における性別役割分担があるから」、「家族の支援・協力が得られないから」が増加しています。

<政策・方針決定の過程に女性が進出していない理由（1・2・3次プラン）>



男女別では、概ね傾向は似ていますが、「家庭・地域・職場での性別役割分担がある」は男性に比べ女性が7.1ポイント高くなっています。逆に「女性の能力発揮の機会が不十分」は男性に比べ女性が8.3ポイント低くなっています。

年齢別では、20歳代の「家庭・地域・職場での性別役割分担がある」(50.9%)が他の年代より比率が高くなっています。70歳以上は多くの項目で比率が低めです。

※表の表示スペース上、項目の文章を要約しています。

(人・%)

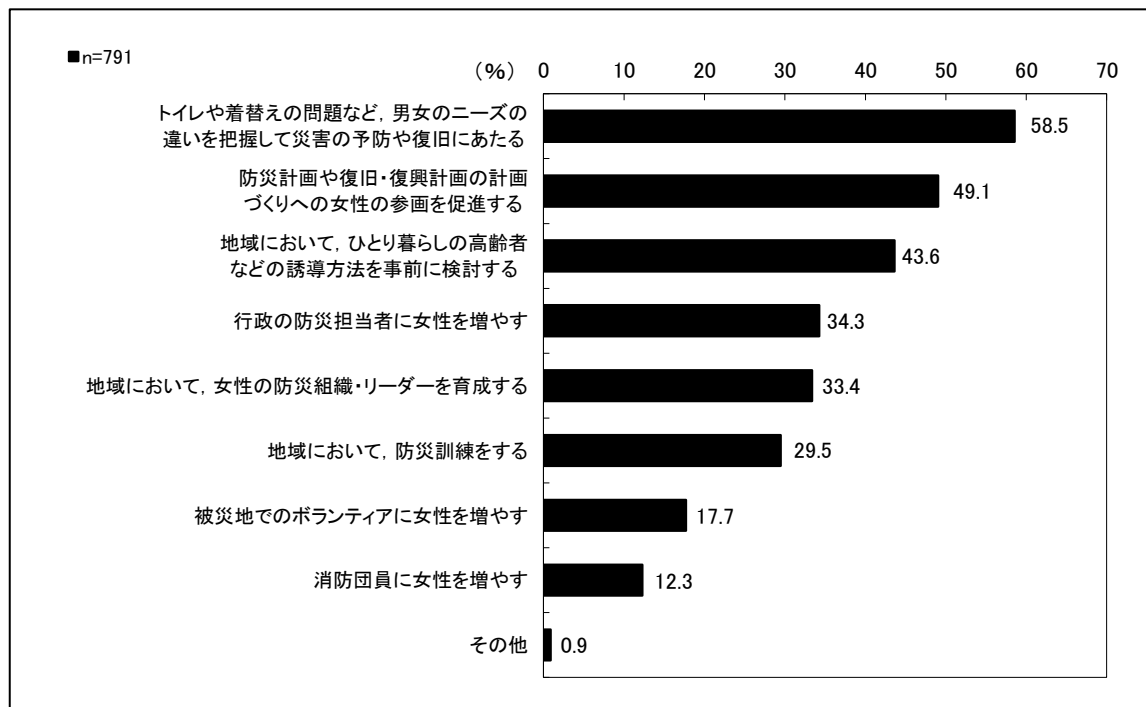
		合計	問25 政策・方針決定の過程に女性が進出していない理由					
			家庭・地域・職場での性別役割分担がある	男性優位の組織運営になっている	家族の支援・協力が得られない	女性の能力発揮の機会が不十分	女性の活動を支援するネットワークの不足	女性側の積極性が十分でない
全体		791 100.0	284 35.9	474 59.9	227 28.7	251 31.7	158 20.0	240 30.3
性別	男性	350 100.0	112 32.0	202 57.7	88 25.1	127 36.3	75 21.4	106 30.3
	女性	435 100.0	170 39.1	268 61.6	138 31.7	122 28.0	82 18.9	133 30.6
年齢	10歳代	13 100.0	5 38.5	8 61.5	0 0.0	5 38.5	1 7.7	3 23.1
	20歳代	55 100.0	28 50.9	35 63.6	15 27.3	10 18.2	12 21.8	16 29.1
	30歳代	77 100.0	38 49.4	57 74.0	20 26.0	20 26.0	15 19.5	14 18.2
	40歳代	108 100.0	35 32.4	71 65.7	31 28.7	36 33.3	25 23.1	28 25.9
	50歳代	118 100.0	42 35.6	79 66.9	47 39.8	45 38.1	25 21.2	37 31.4
	60歳代	206 100.0	72 35.0	120 58.3	68 33.0	72 35.0	38 18.4	73 35.4
	70歳以上	208 100.0	62 29.8	99 47.6	45 21.6	60 28.8	41 19.7	68 32.7

(2) 防災や災害復興について特に力を入れるべきこと

問 26 近年、防災や災害復興について女性の視点を取り入れていくことが重要となっています。あなたは、今後行政や地域において、特に力を入れて取り組んだ方がよいと考えるのはどのようなことですか。【複数回答】

防災や災害復興について特に力を入れるべきことについては、「トイレや着替えの問題など、男女のニーズの違いを把握して災害の予防や復旧にあたる」(58.5%)、「防災計画や復旧・復興計画の計画づくりへの女性の参画を促進する」(49.1%)、「地域において、ひとり暮らしの高齢者などの誘導方法を事前に検討する」(43.6%)が多く、次いで「行政の防災担当者に女性を増やす」(34.3%)、「地域において、女性の防災組織・リーダーを育成する」(33.4%)、「地域において、防災訓練をする」(29.5%)、「被災地でのボランティアに女性を増やす」(17.7%)、「消防団員に女性を増やす」(12.3%)の順です。

<防災や災害復興について特に力を入れるべきこと>



3次プランは、2次プランと傾向は似ていますが、1位の「トイレや着替えの問題など、男女のニーズの違いを把握して災害の予防や復旧にあたる」は2次プランに比べ8.5ポイント増加しています。

■防災や災害復興面で、行政や地域において取り組むべきこと（1・2・3次プラン，上位5位までの回答）

順位	1次プラン	2次プラン	3次プラン
1	地域において、ひとり暮らしの高齢者などの誘導方法を事前に検討する(48.6%)	トイレや着替えの問題など、男女のニーズの違いを把握して災害の予防や復旧にあたる(50.0%)	トイレや着替えの問題など、男女のニーズの違いを把握して災害の予防や復旧にあたる(58.5%)
2	トイレや着替えの問題など、男女のニーズの違いを把握して災害の予防や復旧にあたる(47.1%)	防災計画や復旧・復興計画の計画づくりへの女性の参画を促進する(46.5%)	防災計画や復旧・復興計画の計画づくりへの女性の参画を促進する(49.1%)
3	防災計画や復旧・復興計画の計画づくりへの女性の参画を促進する(43.2%)	地域において、ひとり暮らしの高齢者などの誘導方法を事前に検討する(46.4%)	地域において、ひとり暮らしの高齢者などの誘導方法を事前に検討する(43.6%)
4	地域において、防災訓練をする(33.6%)	地域において、防災訓練をする(35.9%)	行政の防災担当者に女性を増やす(34.3%)
5	地域において、女性の防災組織・リーダーを育成する(27.2%)	行政の防災担当者に女性を増やす(30.6%)	地域において、女性の防災組織・リーダーを育成する(33.4%)

男女別では、男性は「防災計画や復旧計画への女性の参画の促進」(55.1%)、「災害予防や復旧時の男女のニーズの把握」(51.7%)、「行政の防災担当者に女性を増やす」(38.0%)の順ですが、女性は「災害予防や復旧時の男女のニーズの把握」(64.4%)が最も多く、次いで「ひとり暮らしの高齢者などの誘導方法の検討」(49.4%)、「防災計画や復旧計画への女性の参画の促進」(44.1%)の順です。

年齢別では、10歳代は「ひとり暮らしの高齢者などの誘導方法の検討」が他の年代より比率が低くなっています。50歳代、60歳代は「防災計画や復旧計画への女性の参画の促進」が他の年代より比率が高く、60歳代は「ひとり暮らしの高齢者などの誘導方法の検討」も高くなっています。

※表の表示スペース上、項目の文章を要約しています。

(人・%)

		合計	問26 防災や災害復興について特に力を入れるべきこと							
			防災計画や復興計画への女性の参画の促進	行政の防災担当者に女性を増やす	消防団員に女性を増やす	災害予防や復旧時の男女のニーズの把握	被災地でのボランティアに女性を増やす	地域の女性の防災組織・リーダーの育成	ひとり暮らしの高齢者などの誘導方法の検討	地域における防災訓練の実施
全体		791 100.0	388 49.1	271 34.3	97 12.3	463 58.5	140 17.7	264 33.4	345 43.6	233 29.5
性別	男性	350 100.0	193 55.1	133 38.0	47 13.4	181 51.7	54 15.4	127 36.3	128 36.6	83 23.7
	女性	435 100.0	192 44.1	136 31.3	47 10.8	280 64.4	85 19.5	133 30.6	215 49.4	149 34.3
年齢	10歳代	13 100.0	5 38.5	4 30.8	0 0.0	7 53.8	3 23.1	3 23.1	3 23.1	5 38.5
	20歳代	55 100.0	19 34.5	19 34.5	10 18.2	39 70.9	14 25.5	12 21.8	24 43.6	17 30.9
	30歳代	77 100.0	36 46.8	30 39.0	6 7.8	62 80.5	16 20.8	25 32.5	32 41.6	25 32.5
	40歳代	108 100.0	47 43.5	34 31.5	11 10.2	73 67.6	19 17.6	28 25.9	38 35.2	25 23.1
	50歳代	118 100.0	70 59.3	53 44.9	18 15.3	72 61.0	14 11.9	35 29.7	45 38.1	34 28.8
	60歳代	206 100.0	107 51.9	67 32.5	24 11.7	127 61.7	40 19.4	87 42.2	106 51.5	59 28.6
	70歳以上	208 100.0	100 48.1	62 29.8	25 12.0	81 38.9	33 15.9	69 33.2	94 45.2	66 31.7

(3) 分野ごとの男女平等度

問 27 あなたは、次の①～⑦の分野で、男女の地位は平等になっていると思いますか。あなたの気持ちに最も近いものをそれぞれ教えてください。

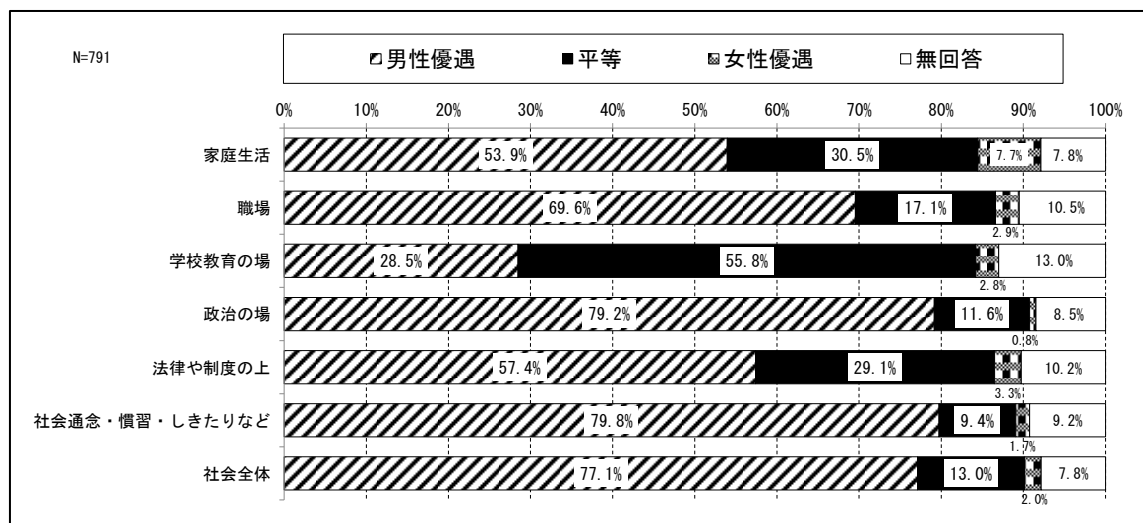
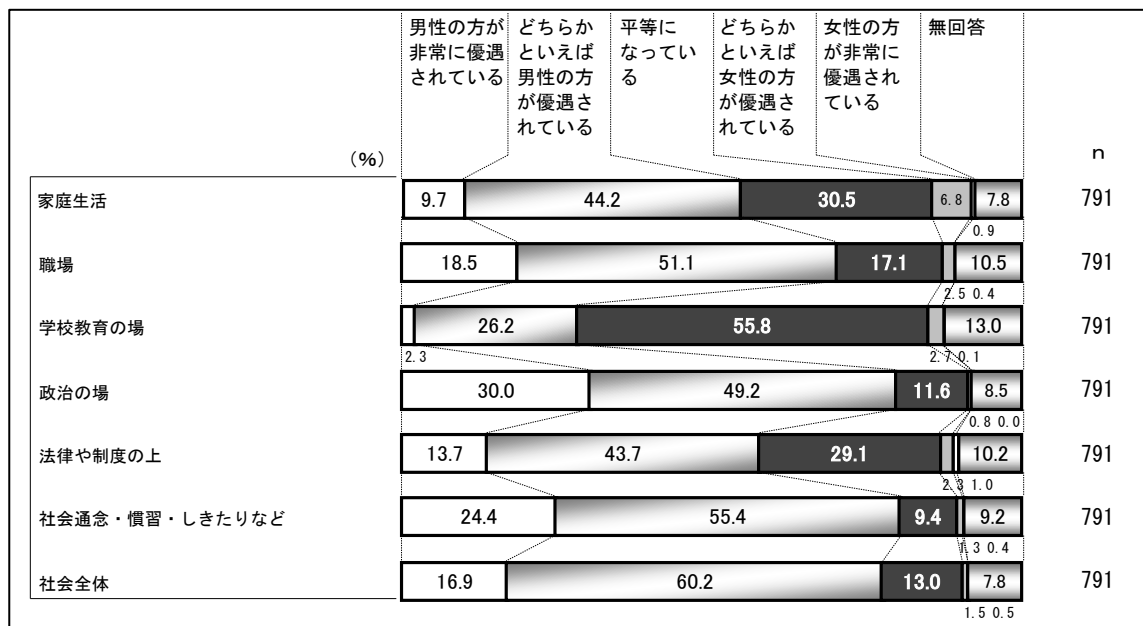
分野ごとの男女平等度について、「男性優遇」は、「社会通念・慣習・しきたりなど」(79.8%)、「政治の場」(79.2%)、「社会全体」(77.1%)、「職場」(69.6%)、「家庭生活」(53.9%)の順です。「学校教育の場」は「男性優遇」は28.5%と少なくなっています。

一方、「平等」は、「学校教育の場」(55.8%)、「家庭生活」(30.5%)、「法律や制度の上」(29.1%)の順です。

※男性優遇：「男性の方が非常に優遇されている」と「どちらかといえば男性の方が優遇されている」の計

平等：「平等になっている」の略

<分野ごとの男女平等度>



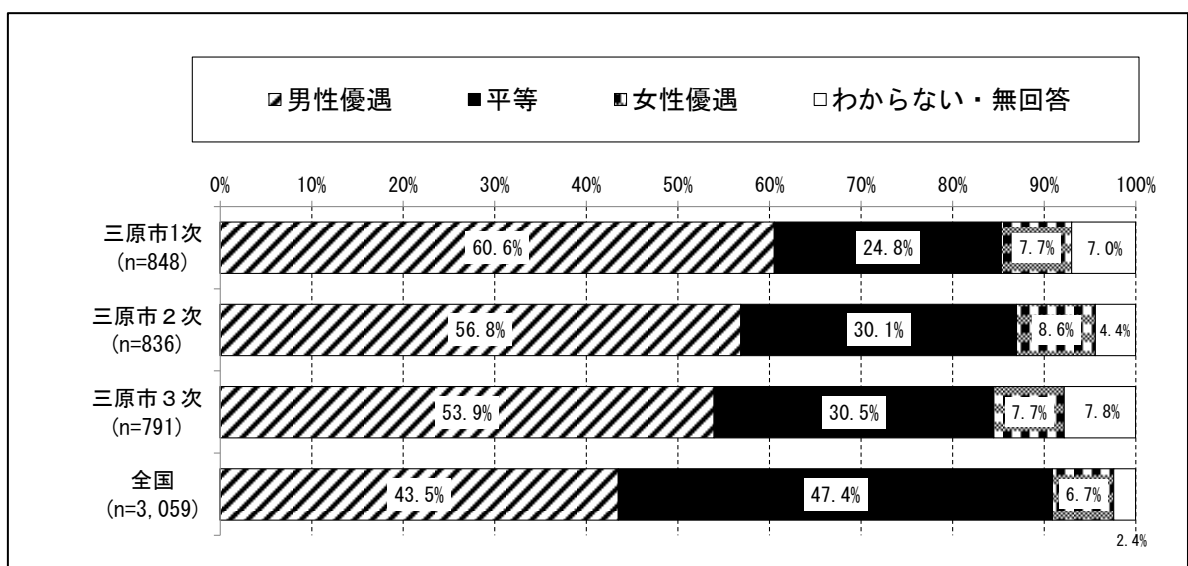
【家庭生活】

1次プラン、2次プラン、3次プランと順次、「男性優遇」の比率が減少し、「平等」の比率が増加しています。ただし、全国に比べ「平等」の比率は3次プランで16.9ポイント低くなっています。

男女別の「男性優遇」は、男性（48.0%）より女性（58.6%）の比率が10.6ポイント高くなっています。

年齢別の「男性優遇」は、50歳代（63.6%）、10歳代（61.8%）、30歳代（53.3%）の順です。一方、「平等」は20歳代（38.2%）、70歳以上（33.2%）、50歳代（30.5%）の順です。

<家庭生活>



(人・%)

		合 計	問27 ① 家庭生活				
			男性の方が非常に優遇されている	どちらかといえば男性の方が優遇されている	平等になっている	どちらかといえば女性の方が優遇されている	女性の方が非常に優遇されている
全体		791	77	350	241	54	7
		100.0	9.7	44.2	30.5	6.8	0.9
性別	男性	350	22	146	124	27	3
		100.0	6.3	41.7	35.4	7.7	0.9
	女性	435	54	201	116	27	4
		100.0	12.4	46.2	26.7	6.2	0.9
年齢	10歳代	13	2	6	2	3	0
		100.0	15.4	46.2	15.4	23.1	0.0
	20歳代	55	6	20	21	5	2
		100.0	10.9	36.4	38.2	9.1	3.6
	30歳代	77	10	31	21	12	0
		100.0	13.0	40.3	27.3	15.6	0.0
	40歳代	108	10	46	32	14	2
		100.0	9.3	42.6	29.6	13.0	1.9
50歳代	118	18	57	36	2	0	
	100.0	15.3	48.3	30.5	1.7	0.0	
60歳代	206	18	100	59	11	2	
	100.0	8.7	48.5	28.6	5.3	1.0	
70歳以上	208	12	86	69	7	1	
	100.0	5.8	41.3	33.2	3.4	0.5	

【職場】

1次プラン、2次プラン、3次プランと「男性優遇」はほぼ同一です。全国に比べ「平等」の比率は3次プランで12.6ポイント低くなっています。

男女別の「男性優遇」は、男性（70.3%）の方が女性（68.9%）より比率が高くなっています。

年齢別の「男性優遇」は、60歳代（76.2%）、40歳代（73.2%）、20歳代（67.2%）の順です。一方、「平等」は10歳代（38.5%）が多く、次いで50歳代（27.1%）、20歳代（23.6%）の順です。

<職場>



(人・%)

		合計	問27 ② 職場				
			男性の方が非常に優遇されている	どちらかといえば男性の方が優遇されている	平等になっている	どちらかといえば女性の方が優遇されている	女性の方が非常に優遇されている
全体		791	146	404	135	20	3
		100.0	18.5	51.1	17.1	2.5	0.4
性別	男性	350	54	192	53	10	0
		100.0	15.4	54.9	15.1	2.9	0.0
	女性	435	92	208	81	10	3
		100.0	21.1	47.8	18.6	2.3	0.7
年齢	10歳代	13	2	6	5	0	0
		100.0	15.4	46.2	38.5	0.0	0.0
	20歳代	55	7	30	13	3	0
		100.0	12.7	54.5	23.6	5.5	0.0
	30歳代	77	13	37	17	8	2
		100.0	16.9	48.1	22.1	10.4	2.6
	40歳代	108	18	61	23	2	1
		100.0	16.7	56.5	21.3	1.9	0.9
	50歳代	118	21	57	32	2	0
		100.0	17.8	48.3	27.1	1.7	0.0
	60歳代	206	46	111	25	4	0
		100.0	22.3	53.9	12.1	1.9	0.0
	70歳以上	208	39	97	19	1	0
		100.0	18.8	46.6	9.1	0.5	0.0

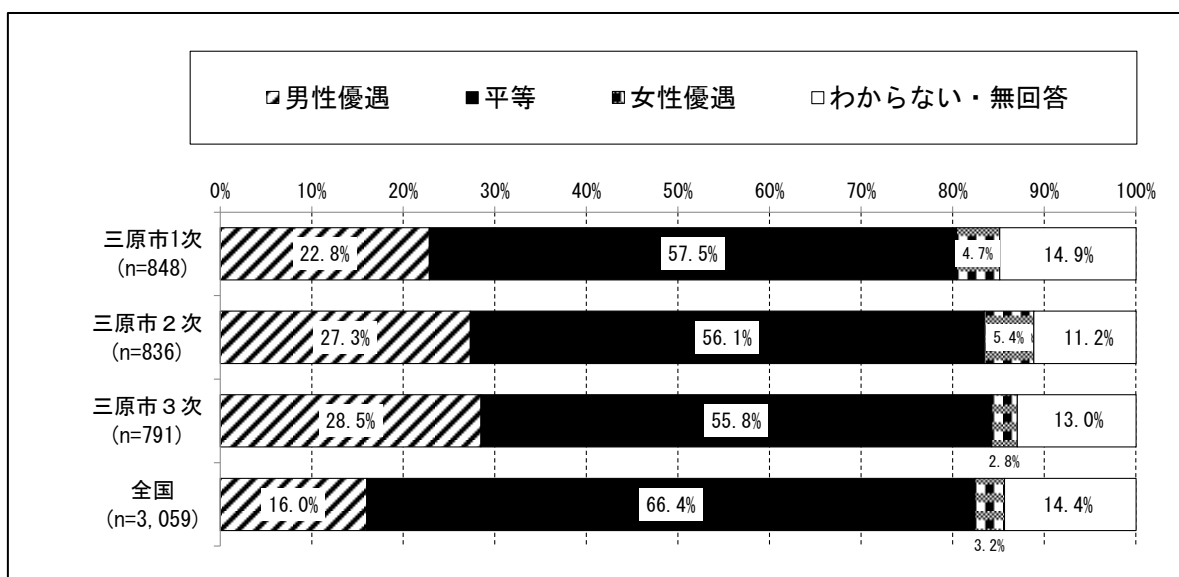
【学校教育の場】

他の項目に比べ、「平等」の比率が高くなっています。ただし、1次プラン、2次プラン、3次プランと順次、「男性優遇」が微増し「平等」が減少しています。全国に比べ「平等」の比率は3次プランで10.6ポイント低くなっています。

男女別の「男性優遇」は、男性（26.5%）より女性（29.9%）の比率が高くなっています。

年齢別の「男性優遇」は、60歳代（35.9%）、50歳代（29.7%）、40歳代（26.9%）の順です。一方、「平等」は10歳代（76.9%）が多く、次いで30歳代（68.8%）、20歳代（67.3%）の順です。

＜学校教育の場＞



(人・%)

		問27 ③ 学校教育の場					
		合計	男性の方が非常に優遇されている	どちらかといえば男性の方が優遇されている	平等になっている	どちらかといえば女性の方が優遇されている	女性の方が非常に優遇されている
全体		791	18	207	441	21	1
		100.0	2.3	26.2	55.8	2.7	0.1
性別	男性	350	5	88	195	10	1
		100.0	1.4	25.1	55.7	2.9	0.3
	女性	435	13	117	243	11	0
		100.0	3.0	26.9	55.9	2.5	0.0
年齢	10歳代	13	1	2	10	0	0
		100.0	7.7	15.4	76.9	0.0	0.0
	20歳代	55	0	12	37	5	0
		100.0	0.0	21.8	67.3	9.1	0.0
	30歳代	77	4	15	53	1	0
		100.0	5.2	19.5	68.8	1.3	0.0
	40歳代	108	2	27	70	1	0
		100.0	1.9	25.0	64.8	0.9	0.0
	50歳代	118	2	33	76	1	0
		100.0	1.7	28.0	64.4	0.8	0.0
	60歳代	206	6	68	97	6	0
		100.0	2.9	33.0	47.1	2.9	0.0
	70歳以上	208	3	47	95	7	1
		100.0	1.4	22.6	45.7	3.4	0.5

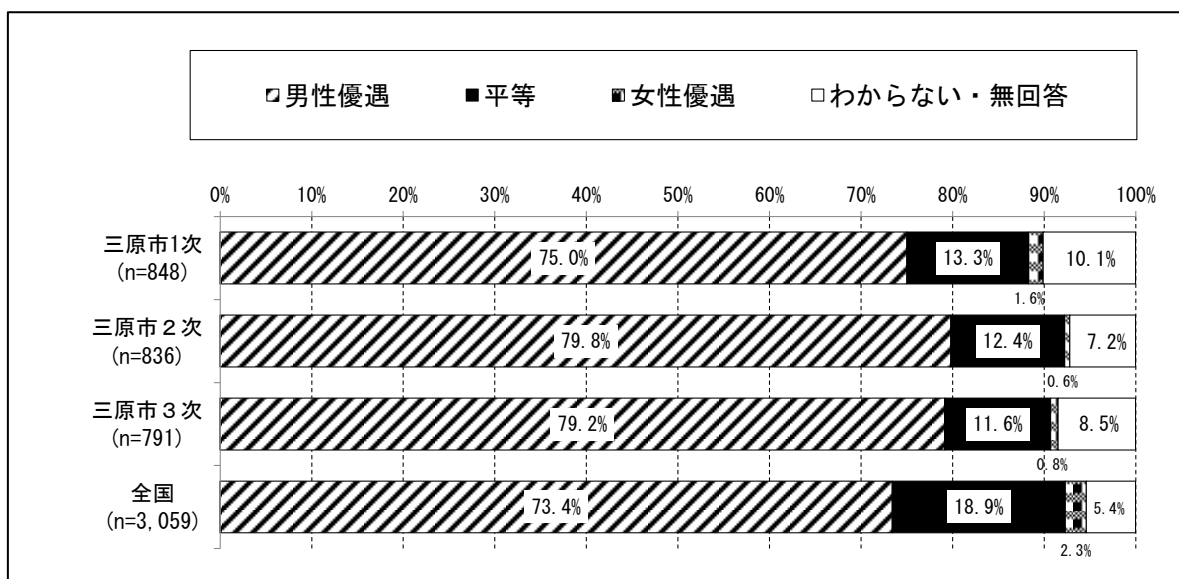
【政治の場】

2次プランと3次プランとも「男性優遇」の比率が高く、横ばいです。全国に比べ「平等」の比率は3次プランで7.3ポイント低くなっています。

男女別の「男性優遇」は、男性（75.4%）より女性（82.1%）の比率が6.7ポイント高くなっています。

年齢別の「男性優遇」は、30歳代（90.9%）が多く、次いで40歳代（87.0%）、20歳代（85.4%）の順です。一方、「平等」は低めの比率ですが10歳代（15.4%）、70歳以上（13.9%）、50歳代（12.7%）の順です。

<政治の場>



(人・%)

		合 計	問27 ④ 政治の場				
			男性の方 が非常に 優遇され ている	どちらか といえ ば男性 の方が 優遇さ れている	平等に なっ てい る	どちらか といえ ば女性 の方が 優遇さ れている	女性の方 が非常に 優遇され ている
全体		791	237	389	92	6	0
		100.0	30.0	49.2	11.6	0.8	0.0
性別	男性	350	76	188	51	5	0
		100.0	21.7	53.7	14.6	1.4	0.0
	女性	435	159	198	41	1	0
		100.0	36.6	45.5	9.4	0.2	0.0
年齢	10歳代	13	5	6	2	0	0
		100.0	38.5	46.2	15.4	0.0	0.0
	20歳代	55	23	24	5	2	0
		100.0	41.8	43.6	9.1	3.6	0.0
	30歳代	77	30	40	7	0	0
		100.0	39.0	51.9	9.1	0.0	0.0
	40歳代	108	40	54	10	0	0
		100.0	37.0	50.0	9.3	0.0	0.0
	50歳代	118	38	60	15	0	0
		100.0	32.2	50.8	12.7	0.0	0.0
	60歳代	206	54	111	24	3	0
		100.0	26.2	53.9	11.7	1.5	0.0
	70歳以上	208	44	91	29	1	0
		100.0	21.2	43.8	13.9	0.5	0.0

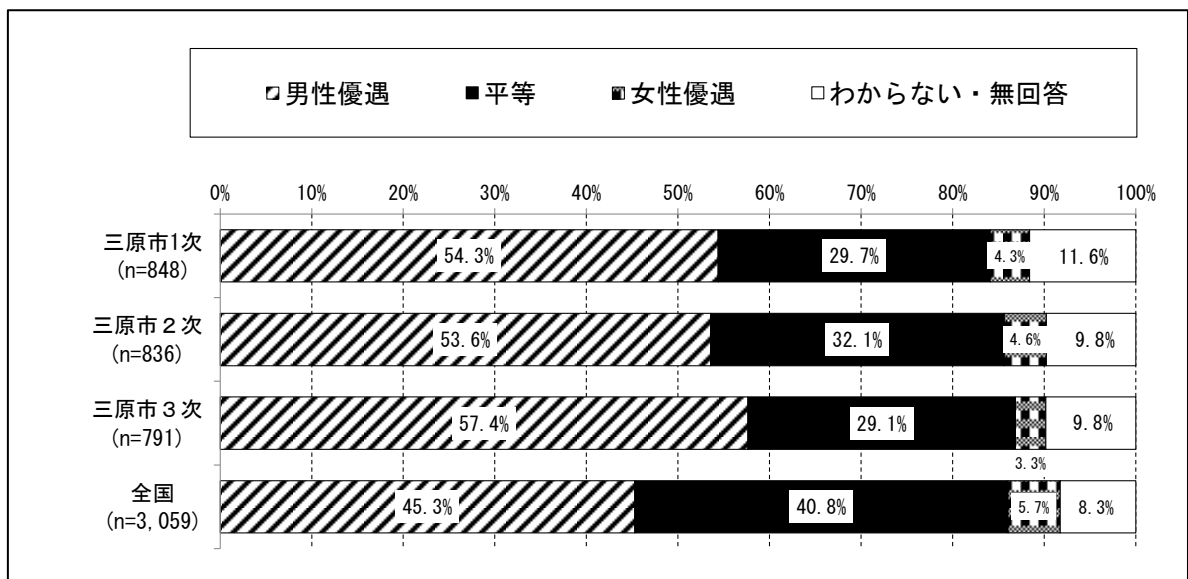
【法律や制度の上】

1次プラン、2次プランに比べ3次プランでは「男性優遇」が微増しました。全国に比べ「平等」の比率は3次プランで11.7ポイント低くなっています。

男女別の「男性優遇」は、男性（46.0%）より女性（66.5%）の比率がかなり高く、20.5ポイント上回っています。

年齢別の「男性優遇」は、30歳代（70.1%）が多く、次いで40歳代（63.9%）、10歳代（61.6%）の順です。一方、「平等」は50歳代（33.1%）、20歳代（32.7%）、10歳代と70歳代（同率30.8%）の順です。

<法律や制度の上>



(人・%)

		合計	問27 ⑤ 法律や制度の上				
			男性の方が非常に優遇されている	どちらかといえば男性の方が優遇されている	平等になっている	どちらかといえば女性の方が優遇されている	女性の方が非常に優遇されている
全体		791	108	346	230	18	8
		100.0	13.7	43.7	29.1	2.3	1.0
性別	男性	350	32	129	132	13	8
		100.0	9.1	36.9	37.7	3.7	2.3
	女性	435	76	213	97	5	0
		100.0	17.5	49.0	22.3	1.1	0.0
年齢	10歳代	13	3	5	4	1	0
		100.0	23.1	38.5	30.8	7.7	0.0
	20歳代	55	8	23	18	3	2
		100.0	14.5	41.8	32.7	5.5	3.6
	30歳代	77	10	44	15	4	2
		100.0	13.0	57.1	19.5	5.2	2.6
	40歳代	108	23	46	30	3	0
		100.0	21.3	42.6	27.8	2.8	0.0
50歳代	118	20	49	39	3	1	
	100.0	16.9	41.5	33.1	2.5	0.8	
60歳代	206	25	96	59	4	2	
	100.0	12.1	46.6	28.6	1.9	1.0	
70歳以上	208	19	78	64	0	1	
	100.0	9.1	37.5	30.8	0.0	0.5	

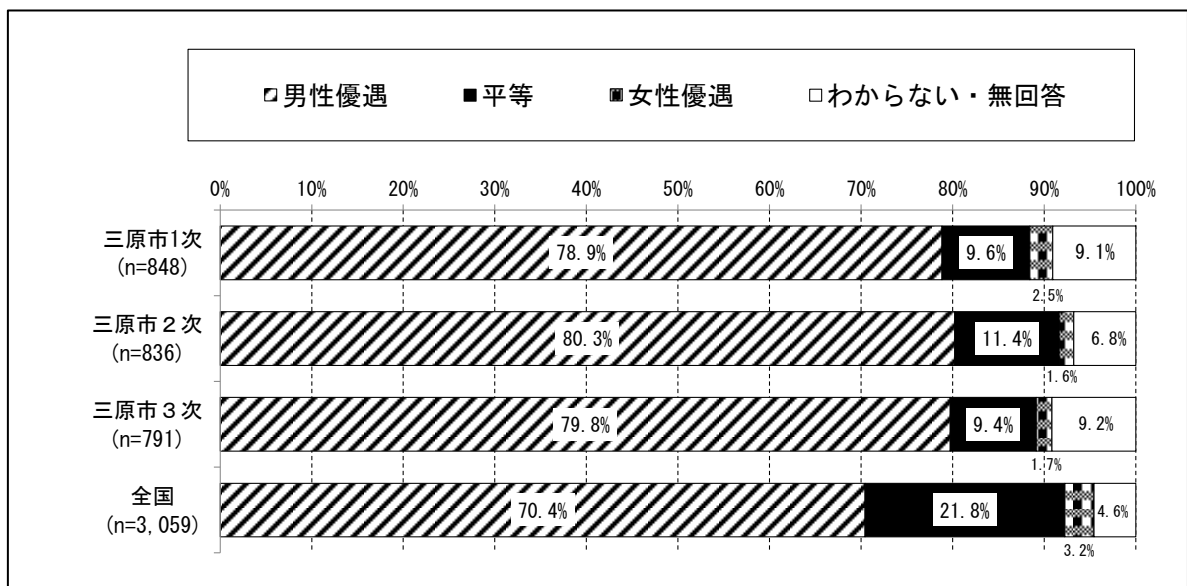
【社会通念・慣習・しきたりなど】

1次プラン，2次プラン，3次プランとも「男性優遇」の比率が高く横ばいです。全国に比べ「平等」の比率は3次プランで12.4ポイント低くなっています。

男女別の「男性優遇」は，男性（77.2%）より女性（81.8%）の比率が高くなっています。

年齢別での「男性優遇」は，10歳代（92.3%）が多く，次いで60歳代（85.9%），50歳代（85.6%）の順です。一方，「平等」は低めの比率ですが40歳代（13.9%），70歳以上（11.5%），50歳代（10.2%）の順です。

<社会通念・慣習・しきたりなど>



(人・%)

		問27 ⑥ 社会通念・慣習・しきたりなど				
		合計	男性の方が非常に優遇されている	どちらかといえば男性の方が優遇されている	平等になっている	どちらかといえば女性の方が優遇されている
全体		791	193	438	74	10
		100.0	24.4	55.4	9.4	1.3
性別	男性	350	71	199	38	6
	女性	435	121	235	36	4
		100.0	27.8	54.0	8.3	0.9
年齢	10歳代	13	4	8	1	0
	20歳代	55	16	31	5	2
	30歳代	77	22	42	7	4
	40歳代	108	26	60	15	2
	50歳代	118	38	63	12	0
	60歳代	206	54	123	10	0
	70歳以上	208	32	106	24	2
		100.0	15.4	51.0	11.5	1.0
		100.0	24.4	55.4	9.4	1.3
		100.0	27.8	54.0	8.3	0.9

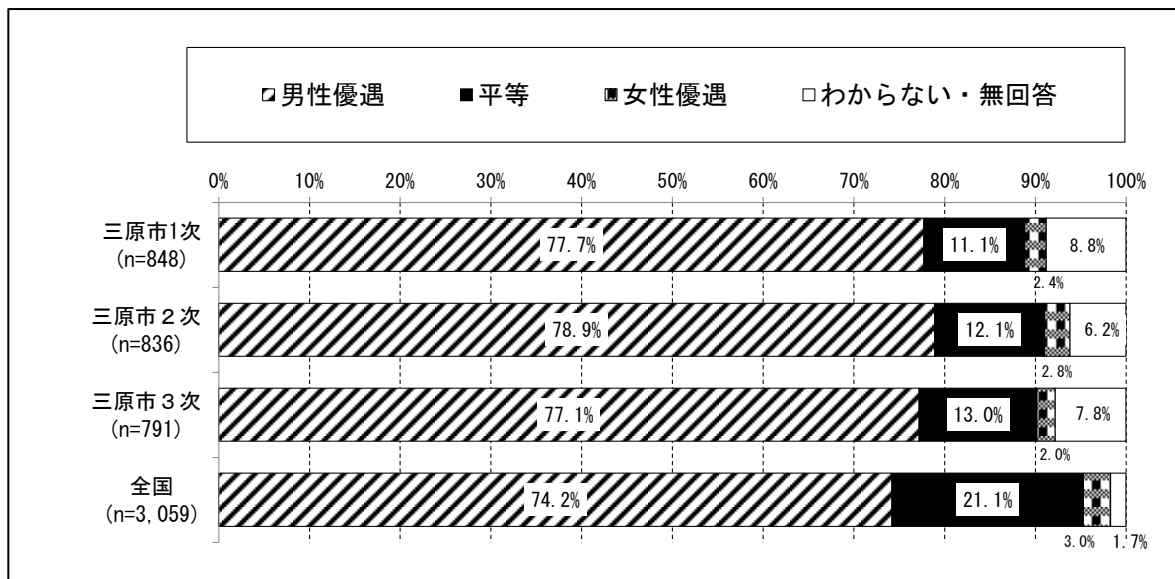
【社会全体】

1次プラン、2次プラン、3次プランとも「男性優遇」の比率が高く横ばいです。全国に比べ「平等」の比率は3次プランで8.1ポイント低くなっています。

男女別の「男性優遇」は、男性（73.5%）より女性（80.2%）の比率が6.7ポイント高くなっています。

年齢別の「男性優遇」は、30歳代（83.1%）、60歳代（83.0%）、50歳代（80.5%）の順です。一方、「平等」は低めの比率ですが10歳代（23.1%）、40歳代（15.7%）、20歳代（14.5%）の順です。

<社会全体>



(人・%)

		合 計	問27 ⑦ 社会全体				
			男性の方が非常に優遇されている	どちらかといえば男性の方が優遇されている	平等になっている	どちらかといえば女性の方が優遇されている	女性の方が非常に優遇されている
全体		791	134	476	103	12	4
		100.0	16.9	60.2	13.0	1.5	0.5
性別	男性	350	45	212	52	10	4
		100.0	12.9	60.6	14.9	2.9	1.1
	女性	435	88	261	50	2	0
		100.0	20.2	60.0	11.5	0.5	0.0
年齢	10歳代	13	4	6	3	0	0
		100.0	30.8	46.2	23.1	0.0	0.0
	20歳代	55	7	36	8	3	0
		100.0	12.7	65.5	14.5	5.5	0.0
	30歳代	77	17	47	9	3	1
		100.0	22.1	61.0	11.7	3.9	1.3
	40歳代	108	19	64	17	1	2
		100.0	17.6	59.3	15.7	0.9	1.9
	50歳代	118	20	75	17	1	0
		100.0	16.9	63.6	14.4	0.8	0.0
	60歳代	206	33	138	20	3	1
		100.0	16.0	67.0	9.7	1.5	0.5
	70歳以上	208	32	107	28	1	0
		100.0	15.4	51.4	13.5	0.5	0.0

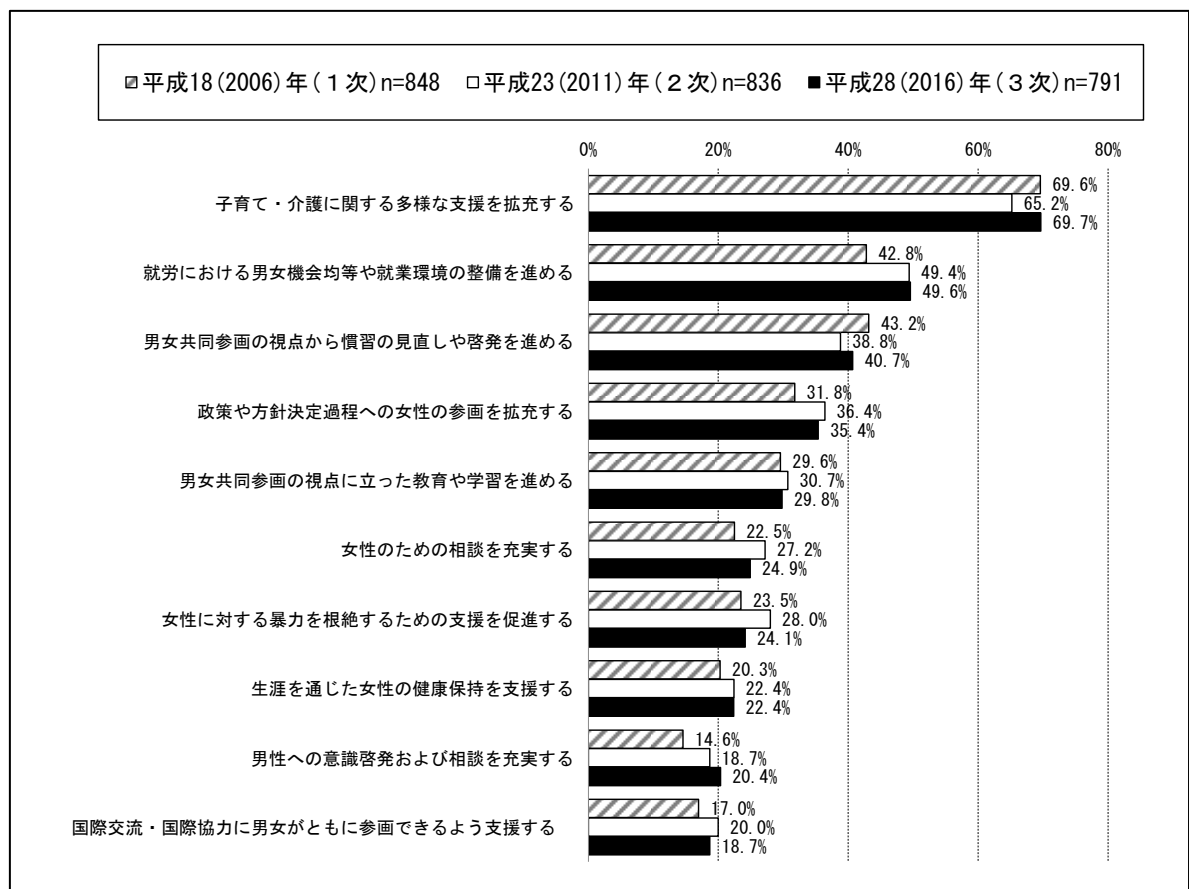
(4) 男女共同参画社会実現に向け力を入れるべきこと

問 28 男女共同参画社会の実現を目指し、三原市は今後どのようなことに力を入れていくべきだと思いますか。【複数回答】

男女共同参画社会実現に向け、市が力を入れるべきことについて、今回の調査（3次プラン）では、「子育て・介護に関する多様な支援を拡充する」（69.7%）が最も多く、次いで「就労における男女機会均等や就業環境の整備を進める」（49.6%）、「男女共同参画の視点から慣習の見直しや啓発を進める」（40.7%）、「政策や方針決定過程への女性の参画を拡充する」（35.4%）、「男女共同参画の視点に立った教育や学習を進める」（29.8%）、「女性のための相談を充実する」（24.9%）、「女性に対する暴力を根絶するための支援を促進する」（24.1%）、「生涯を通じた女性の健康保持を支援する」（22.4%）、「男性への意識啓発および相談を充実する」（20.4%）、「国際交流・国際協力に男女がともに参画できるよう支援する」（18.7%）の順です。

1次プラン、2次プラン、3次プランの傾向はほぼ同様です。2次プランで比率が下がった「子育て・介護に関する多様な支援を拡充する」は比率があがり 69.7%です。

<男女共同参画社会実現に向け力を入れるべきこと（1・2・3次プラン）>



男女別では、概ね傾向は似ていますが、「子育て・介護に関する多様な支援の拡充」が男性（63.1%）に比べ女性（74.7%）が11.6ポイント高くなっています。

年齢別では、10歳代で「子育て・介護に関する多様な支援の拡充」の比率が他の年代に比べ高く、多くの項目を選択しています。20歳代は「男女共同参画の視点での慣習の見直しや啓発」、「政策や方針決定過程への女性の参画の拡充」の比率が他の年代に比べ低くなっています。30歳代、40歳代、50歳代、60歳代では「就労における男女機会均等や就業環境の整備」の比率が高くなっています。

※表の表示スペース上、項目の文章を要約しています。

(人・%)

		合計	問28 男女共同参画社会実現に向け力を入れるべきこと									
			男女共同参画の視点での慣習の見直しや啓発	政策や方針決定過程への女性の参画の拡充	就労における男女機会均等や就業環境の整備	子育て・介護に関する多様な支援の拡充	男女共同参画の視点に立った教育や学習	女性に対する暴力根絶のための支援の促進	女性のための相談の充実	男性への意識啓発および相談の充実	生涯を通じた女性の健康保持の支援	国際交流・国際協力への参画支援
全体		791 100.0	322 40.7	280 35.4	392 49.6	551 69.7	236 29.8	191 24.1	197 24.9	161 20.4	177 22.4	148 18.7
性別	男性	350 100.0	154 44.0	137 39.1	171 48.9	221 63.1	105 30.0	80 22.9	84 24.0	69 19.7	68 19.4	65 18.6
	女性	435 100.0	166 38.2	141 32.4	217 49.9	325 74.7	128 29.4	109 25.1	110 25.3	89 20.5	107 24.6	80 18.4
年齢	10歳代	13 100.0	5 38.5	5 38.5	5 38.5	11 84.6	4 30.8	4 30.8	3 23.1	3 23.1	2 15.4	1 7.7
	20歳代	55 100.0	15 27.3	15 27.3	26 47.3	44 80.0	12 21.8	15 27.3	14 25.5	11 20.0	14 25.5	9 16.4
	30歳代	77 100.0	27 35.1	30 39.0	39 50.6	60 77.9	15 19.5	18 23.4	20 26.0	18 23.4	22 28.6	11 14.3
	40歳代	108 100.0	32 29.6	33 30.6	56 51.9	80 74.1	22 20.4	24 22.2	27 25.0	23 21.3	19 17.6	13 12.0
	50歳代	118 100.0	55 46.6	41 34.7	65 55.1	84 71.2	31 26.3	34 28.8	29 24.6	21 17.8	25 21.2	20 16.9
	60歳代	206 100.0	95 46.1	76 36.9	109 52.9	145 70.4	73 35.4	53 25.7	50 24.3	46 22.3	38 18.4	39 18.9
	70歳以上	208 100.0	90 43.3	77 37.0	88 42.3	121 58.2	75 36.1	41 19.7	51 24.5	36 17.3	55 26.4	52 25.0

アンケート 自由意見

主な自由意見を以下の項目に分類して示します。いくつかの項目の意見を含んでいる場合がありますが、代表的な項目に分類しました。原文を尊重しましたが、一部抜粋や用字・用語の統一などをしました。

参考として、性別、年代を付しました。

【分類した項目】

- 男女平等，市民の意識など
- 就労や職業生活など
- 子育て支援・子育て環境など
- 高齢化社会など
- 要援護者支援，災害時対応など
- 男女の人権など
- 教育・普及啓発など
- 計画の推進・管理，広報など

自由意見	性別	年代
【男女平等，市民の意識など】		
男が変わる。男の考え方を変えて行く。	男性	70 歳代
・ 男性の意識，女性の意識，お互いに認め合う心が必要。 ・ 男女にもお互い努力する心が必要。人のせいにならない。	男性	60 歳代
男女による違いは自然。これを活かした平等を望む。共同参画は男女が同じことをするのではなく，特性を生かしたものでなければならない。次世代への影響を研究し，共同参画を進めるべき。	男性	70 歳代
男女の違いはあるもの，また個人差もある。その違いを認め，歩み寄ることができればと思う。	女性	50 歳代
個人的な見解とし，生物学的に性差は縮めることは困難である。それを踏まえた上で共同参画社会の実現を望む。	女性	50 歳代
組織の中の物事を決める立場の人の男女比を均等にすれば平等と言う訳ではなく，助けを必要とする人が疎外感，不平等を感じない様，代弁し反映できるリーダーの育成が重要と感じる。	男性	30 歳代
男女共同参画社会になって行くと，子どもの数はどんどん減っていくと思う。非常に残念。	男性	60 歳代
周りの意識改革も必要だと思うが，女性自身の意識改革が一番だと思う。女性自身が平等に向かって意識を変えなければいけない。そうすれば周りの目も変わってくると思う。	男性	60 歳代
社会はまだ男性優位の考え方が根強いと思う。意識改革には時間がかかると思うが，活動を続けて行くことは大切だと思う。	女性	40 歳代
「男性中心の社会」という従来の考えを変えて行くこと。	女性	70 歳代
古い考えと思うが，まず男女平等は実際難しいのではないか。平等である前に男女の性差についても考える必要はないか？今の考え方では，出産・育児がネガティブなイメージにつながる気がする。男女に限らず，向き不向きというものはあるが，女性の社会進出を外ばかり向けている現状では少子化に歯止めはきかないし，疑問も多い。	女性	30 歳代
男女が共に尊重し，認め合って仲良く前進できると“男女平等”という言葉を出さずとも，うまく行くと思う。	女性	60 歳代
日本は多民族国家でなく，単一民族・言語を使う国なので，特に米国のように離婚率は高くない。欧米のやり方が全て良いと勘違いする必要はない。たとえ本調査の内容，趣旨に反することがあっても，伝統的なものは(精神的含む)残すべき。	男性	60 歳代
男女平等ということは，女性が男性と同じような仕事を全部できるわけではないことを理解してから，女性も共同参画実現ができると思う。	女性	60 歳代

自由意見	性別	年代
男女共同参画社会とは？内容がいまいちわからない。男女が平等ではないのはわかるが、もっとわかりやすく意味を説明すると皆が興味を持つと思う。	男性	40 歳代
家事に追われて、男性のように仕事だけにのめり込む時間がない。男は仕事、女は家庭のことという社会風潮がなくならなければ、男女平等はやってこない。	女性	50 歳代
性別による偏見は、大昔からあまり変化していないように思う。特に立法・司法・行政が縦割りのため上手く機能していないことが多いように思う。横のつながりも大切。社会全体で取り組む必要あり。	男性	70 歳代
そもそも男女の能力が違うのに、何でも平等にしようとするのが間違いではないか。能力の違いを前提とし、向いていることをするのがベストである。また、介護、育児の負担を下げするため、三原市周辺に住宅と施設を充実させ、郊外からの人口流入を促進すべきである。尾道、福山などの周辺都市に対し、三原のメリットは駅周辺の生活環境の充実であるべき。	男性	30 歳代
男性の考え方、意識を変えることが大事と思う。	女性	70 歳代
実現はなかなか大変だが、一人一人が協力し、そういう社会を目指していけば良いと思う。	女性	40 歳代
男女平等でなくても良いと思う。	女性	70 歳代
女性の意識というより、まだまだ男性の女性に対する見方、考え方が見下している気がする。男性自身の女性に対する意識改善が必要なのでは？ 結婚して家庭にいても、男は外で働き、女は家事をする。パートに出ているだけでは家事をしない理由にならないなど。男は自分が働いているから、子どもたちが食べて行けるのだと言い張る。人にもよるかもしれないが、女性が家を守り、子どもを見ているありがたみの気持ち、言葉かけがない。	女性	30 歳代
人それぞれの共同参画もあって良いと思う。	女性	70 歳代
最近は女性の立場も良くなってきている。	男性	40 歳代
男女にしろ、障がいの有無にせよ、平等と言いながら両者の違いを考慮せず、すべて平等という法則、規則なりによって、より女は働きにくくされ、男と同じにできない状況にもかかわらず、それによって機会を奪われ、低賃金に据え置かれる状態を生み出している。 男どもの頭の中や紙の上だけで考えられる女は、どこまで働かせれば気が済むのか。せめて馬鹿な男に“長”という立場を与えないでほしい。	女性	60 歳代
男女平等の立場で発言ができ、皆が幸せと感じる生活が実現できたら良い。	女性	60 歳代
男女の人権、共同参画については難しくよくわからない。	女性	60 歳代
制度的な面もちろん大きいですが、ある人の周囲の個々人がどのような考え方を持っているかによって環境は大きく変わってくる。	男性	50 歳代

自由意見	性別	年代
どのような社会をつくりたいのかあまりピンとこない。男にも女にもそれぞれ苦労はあるし、喜びも全く同じだとは思わない。同じ一票を持って選んだ人が市政を担っているのも、特に女性が参画できない社会とも思えない。 身の回りの女性からは「男に生まれたら良かった」のようなことも聞かない。幸せな家庭をつくるには、妻も夫も一緒に頑張らないといけないと思う。	男性	30 歳代
男が変わらなければ、いつまでたっても戦前 or 明治時代かと思われるような世の中である。戦後生まれの男でも、いつまでたっても女は自分の持ち物扱い。男なんて死んでしまえと思う。	女性	50 歳代
広島県はマスコミ(テレビ、新聞)含め、すべて保守的で自由がないと感じている。そのような状態では、古い考えは変わらないと思う。	男性	20 歳代
男女間の体力差をできるだけなくす政策を(男性しかできない仕事など、体力がいる仕事のために)。	男性	20 歳代
女性は、女性にしかできない「子どもを産む」ことに専念する期間があっても良いと思うが、社会がその期間を与えていないのではないかと。女性にしか子どもを産むことができないということを重く考え、男女共同参画社会の実現に向けて取り組んでほしい。	女性	70 歳代
基本的な体のつくりが異なるため、すべてが平等な社会は大変難しいかと思う。社会参画されてバリバリ頑張られている方が平等平等、女性の地位向上といわれているように思う。不平等を感じながら日々頑張られているからだろう。	女性	50 歳代
【就労や職業生活など】		
男女平等社会はいつになったら来るのか？給料状況も全く違う。勤続 20 年になるが、入社時とほぼ給料は変わらないのに、社会保険料だけが上がっていく実状は理解できない。少子化にもなるはず。	女性	40 歳代
年金はすべて個人とする。主婦専業をつくるべきではない。ここから女性が外へ出て働くことが阻害されている。	女性	70 歳代
女性の多い職場では、男性優遇、結婚、出産していない人が優遇されている。どこの会社でもあるのではないかと思う。そう言った事業所への指導をしてもらいたい。	女性	50 歳代
家庭内ではよく話し合う。職場では(特に男社会)女性の場所や地位を組み入れる。	男性	60 歳代
現状ではまだまだ育児、家事は女性のものという価値観が年配の方(会社の上司)に根付いている。この考えを変えないと女性は出産したら働けないと思う。	女性	40 歳代
・企業の改革が必要である。→なかなか進まないだろう。法制化も必要。 ・女性の地位向上は必要だが、無能な者やレベルの低い者がリーダーになると下は大変になるため、何でもかんでもという訳にはいかない。制度も必要である。	男性	40 歳代

自由意見	性別	年代
子育てや介護をしながら共働きで頑張っている方を応援したいが、急に休んだり、勤務を規制されると私たちにも負担が多い。ストレスはたまるし、しんどさがずっと続く状況である。会社側にも問題はあと思うが、もっと子育てや介護などの支援の充実をしていく必要があり、急がなくてはいけない課題であると思う。	女性	30 歳代
民間就労と市職員との格差があり、本当に貧困で苦しい人に気づいていないように思う。行政の都合での契約の有無なども不合理がたくさんある。女性の職場でも正社員と臨時の差が大きく、働く女性は我慢をさせられている。 男女共同参画社会の実現で、女性の職場改善につながるのか？(パワハラ、えこひいきもたくさんある)	女性	50 歳代
【子育て支援・子育て環境など】		
希望の保育園に入れなかったら、仕事を復帰したくてもできない。これが女性が社会進出できない理由である。	女性	20 歳代
・男性の職場での育児休暇の取得がすすめられているが、まだまだ取りにくい環境である。上になればなる程取ることが難しい。 ・女性も安心して職場で働ける様、子どもの急な体調不良でも対応してもらえる保育施設の充実が必要(例：ベビーシッターのようなサービス、病児保育を増やす)。 ・保育士を増やすためには、賃金を上げるだけでは無理。女性の職場は、いじめや人間関係のトラブルも多く、そのせいで復職したくないという人も少なくないと思う。働きやすい楽しい職場なら賃金が安くても、働き続けたいと思う。	女性	30 歳代
女性がどんどん働くのは良いし、働かざるを得ない世の中。2歳くらいまではなるべく子育ての大変さ、可愛さを経験した方が子どものためにも良いと思う。そのために日常的な手助け、経済的助けが必要になる。政治が関係するかもしれない。	女性	70 歳代
・中高校生への教育。 ・男性の育児休業の取得率を上げる。 ・男性も参加しやすい子育てイベントを増やす。	女性	60 歳代
女性の社会進出が広がる結果、子が寂しさを感じるようなことがあってはいけない。必需品が揃っていても、欲しいもののために、親子の時間を犠牲にして働いてはいないか見つけ直す時がきている。	男性	30 歳代
保育園があっても 19 時まででは家族の助けなしではフルタイムで働けない。病児保育や休日保育も充実してほしい。学校行事も土曜に行くと仕事のある人は参加しにくく、子どもが小さい時は仕事との両立が大変。	女性	40 歳代

自由意見	性別	年代
今は働きながら1人で子どもを育てる男性も多くなっていると思う。女性と同じように男性が1人でも子育てしやすいように時短勤務や相談する所の充実ができれば良いのでは？もちろん夫婦2人で子どもを育てるのに支援するのが一番大事である。	女性	50 歳代
三原の駅前周辺はマンションがたくさんあるが、入居する方が若くて子どもが増えるようになるなら、保育所や遊び場などを付近で確保し、女性が働きに出やすい環境を作る。 アンケートの中に女性の視点という言葉が出てくるようにバリアフリーになっていないと思った。	女性	40 歳代
女性がもっと社会へ進出できるようにするために、子育て支援を強化すべき。	女性	10 歳代
子育てに対して、女性の負担が大きすぎると思う。男性の育児休暇を実現してほしい。	男性	30 歳代
産休や育休中に夫が育児を手伝おうと保育所を利用しようとするも、妻側が家にいることで利用できない。妻を思い協力しようとする夫側の思いなど理解してもらえず待機児童として自宅にいるのが現状。結局女性の負担になり、思うように働けない。どの世代も充実して生活できるような町にしてほしい。	女性	20 歳代
田舎の方、高齢の方ほど、男性の子育て参加に無理解。祖父母時代の方に、働く女性の大変さを理解してもらわなければならない。	女性	40 歳代
【高齢化社会など】		
私たちは67歳と72歳、主人は何もできないから残ると困るので早く死ぬと言っている。では残った女は誰が？と言うことになる。子どもたちには迷惑はかけられない、ボケたらと思うと悲しくなるので途中で考えるのをやめてしまう。とにかく男女助け合って生きていかなければと思っている。	女性	60 歳代
【要援護者支援、災害時対応など】		
・災害時、高齢者の誘導方法を各町内会に徹底させるべきではないか。町内会ごとに防災訓練を行う。 ・災害ボランティア登録(土木関係、食事、看護、介護、保育など)分野に分かれての登録が必要ではないかと思う。ボランティアに行きたくても、女性は土砂(力仕事)の片づけなどは難しいが、特技を生かしての援助なら参加できることが多くある(特に子育てを終えた女性)。	女性	60 歳代
【男女の人権など】		
近年、若い人の家庭での男性に対する暴力が増加しているとテレビなどで耳にする。暴力に関しては男女の区別をしない方が良いのでは？	女性	60 歳代
ストーカーでよく若い女性が殺されている。男性の心のゆがみが出ているのではないか。娘を持つ身としては心配である。	女性	60 歳代

自由意見	性別	年代
セクハラのををさす時「女性が嫌だと思った」になるので難しい。女性に好かれようと男が女のわがままを容認する。女性は弱いから守ってあげないといけないという社会のルール。女性は男女平等をうたいながら、女性だけが特別扱いされるべきと考えている。	男性	30 歳代
【教育・普及啓発など】		
小学校時代の教育が大変重要なことだと思う。	男性	70 歳代
市民一人ひとりの意識向上に努めるため、各町内会の代表者会議を行う。	男性	70 歳代
良い意見はない。ただイジメ問題と一緒に、なくなる問題ではない。人間だから。逃げ込む場所や方法、カウンセリングをする場所をつくり提供し、宣伝して行くしかない。	男性	50 歳代
大人になって、男女平等と教えられても、その人の性格や個人の理解差があるので、小さい時からの教育が今後の三原市や社会を支えると思う。	女性	30 歳代
男女という区別に固執せず、得意な方が得意なことに取り組んだら良いと思う。そのためには家庭・職場で求められる役割を男女どちらも果たせるだけの教育や環境が必要だと思う。男性は家事・育児ができるように、女性は経済的自立ができるように、そして女性自身が自立しようという意志を持つように。	男性	30 歳代
学校教育において、男女の性役割より個々人の能力、性格を重視する姿勢が明確にされていけば、少なくとも若い世代では男女で全て区別してしまう意識を変えることができるかと思う。	女性	20 歳代
【計画の推進・管理、広報など】		
三原市として、期毎に目標を明確にし、市民に公表する。市の取組みを市民にわかりやすく提示する。	男性	40 歳代
アンケートの結果を重点項目 2～3 にしぼり、積極的に P R していく必要があると思う。	男性	70 歳代
現在、三原市がやっている男女共同参画に限らず、実態が見えない、わからない。もっと市民に実態を知らせてほしい。すると問題点が出てくるので、それから施策にする。	男性	70 歳代
「問 28 男女共同参画社会実現に向け力を入れるべきこと」の全て実現できると良いと思う。	女性	70 歳代
場所とリーダー、プラス α として予算が必要。	男性	60 歳代
良いと思うことは実行する勇気が必要だと思う。	男性	70 歳代

自由意見	性別	年代
問 28 の男女共同参画社会実現に向け力を入れるべきことの 10 項目全部の実現を願っている。中でも急いでほしいのは、子育て、介護の支援拡充である。社会の安定、女性の社会進出を可能にするためにも重要なテーマだと思っている。	女性	70 歳代
本調査の結果を何らかで知りたい。	男性	70 歳代
アンケートをただで、何も実現されないようなら、無駄な税金を使ってまでしないでほしい。一般企業の意識改革を変えることはかなり厳しいし、公務員の意識改革も厳しいと思うが、やれることはやってほしい。	女性	40 歳代